

関東日本人頭蓋骨の人類学的研究

千葉大学医学部解剖学教室 (主任 小池教授)

三橋 公平

KOHEI MITSUHASHI

(昭和33年4月28日受付)

目 次

第1章 緒 論	第4章 総 括
第2章 研究材料及び研究方法	第5章 結 論
第3章 計測成績	主 要 文 献

第1章 緒 言

頭部は人類として最も特長のある部分であるがその基本的な形態は頭蓋骨によつて与えられるものである。しかして頭蓋骨は全身骨格中人類学的に最も主要なる部分を占めるものである。従つて1795年 Blumenbach によつて開始された頭蓋学は世界各国に於て、多数の研究者によつて推進されている。

日本に於ては1893年小金井のアイノ頭蓋に関する研究を皮切として、古くは足立の中国頭蓋、中野の京都並びに北陸頭蓋、原の九州頭蓋、Bälz、小金井の関東頭蓋等の報告があるが、之等の研究は材料の選択及び測定項目数等について不備の点のあることが指摘されている。

今日に於ては材料の選択、全頭蓋に亘る計測項目及びその統計学的処理に於て、重要なる文献としては、宮本(1924年)の畿内頭蓋、大槻(1930年)の北陸頭蓋に関する報告が挙げられる。

関東日本人については前述の如く、古くは Bälz-小金井の報告があるが、最近森田(1951年)の報告が存在するのみである。

関東地方の様な広大な地域に於ける民族集団の研究には、材料の選択上からみても、多くの報告が必要とされよう。余の研究材料は後述する様に南関東地方出身者が過半数を占めているが、この点に関し森田の報告は単に関東地方とのみ記載されていて、その材料の県別的分布が明らかでない。かゝる点から考察して後述する様に余の成績と森田のそれとが、幾多の項目に於てかなりの差異を示すことは注目すべき所見といわれよう。

かゝる観点から余は関東日本人頭蓋の研究を行い

森田の成績を参考としながら余の関東頭蓋を主として宮本の畿内頭蓋及び大槻の北陸頭蓋と比較して、その間に於ける地方的差異を闡明せんとするものである。

第2章 研究材料及び研究方法

(第1表, 第2表)

研究材料は千葉大学医学部解剖学教室所蔵の頭蓋骨で、その原籍が関東地方に存在するものの中から満18才から満83才に至る迄の男性頭蓋76個、満20才から満80才に至る迄の女性頭蓋23個を厳選した。この際第1表及び第2表によつて明らかなるように本籍地の調査を厳重にすると共に、本籍地の県別及び生存年代を明記した。尚本籍地の選択に当つては都市出身者は全部除外し、純農村出身者のみを採用した。要するに著者は研究材料の選択に当つては極めて細心の注意を払つたことをここに付記する。生存年代を明記したことは後の時代の研究の参考に資するためである。更に出身地の分布は第1表及び第2表からして、千葉、茨城、栃木の三県が多数を占めていることが看取される。

研究方法は主として R. Martin の Lehrbuch der Anthropologie 2. Auf. (1928年)によつた。

統計的な取扱は次の通り行つた。

M.....平均値 m.....平均誤差
σ.....標準偏差 V.....変異係数

$$D \pm m_{diff} = (M_1 - M_2) \pm \sqrt{m_1^2 + m_2^2}$$

但 M, m. は関東地方人の計測値
M₂ m₂ は比較する他地方人の計測値,

$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}} \geq 3$ なる時その差は確差であるとした。本文中に於て差=……とは得られた確差の数値を示したも

のである。

尚余の研究は前章に於て記述した様に、余の関東頭蓋を中心として、畿内及び北陸頭蓋との比較を行い相互間の地方的差異を闡明せんとするものであるので、すべての項目に亙り確差計算を行い確差の有無を明記する様に勉めた。しかしてその確差の有無は総括及び結論に於て常に重大なる考慮を払うよう

に勉めた。余は見掛上の差異と確差とを区別し確差による地方差については別に之を明記することとした。

第3章 計測成績(第3表)

余の関東頭蓋についての計測各項の平均値、標準偏差、変異係数等は第3表の通りである。尚以下

第1表 検査材料表(男性)

整理番号	標本番号	性別	年令	生存年代	原籍	整理番号	標本番号	性別	年令	生存年代	原籍
1	3	♂	50	1877~1927	埼玉	39	179	♂	70	1856~1927	東京
2	10	♂	32	1895~1927	埼玉	40	183	♂	47	1889~1936	茨城
3	16	♂	51	1876~1927	千葉	41	186	♂	40	1896~1936	茨城
4	19	♂	53	1874~1928	千葉	42	189	♂	66	1870~1937	茨城
5	21	♂	50	1877~1928	栃木	43	190	♂	70	1864~1935	茨城
6	24	♂	17	1910~1928	千葉	44	203	♂	78	1859~1937	茨城
7	26	♂	48	1879~1928	千葉	45	210	♂	34	1904~1939	千葉
8	27	♂	47	1880~1928	千葉	46	211	♂	24	1914~1939	千葉
9	30	♂	41	1887~1928	茨城	47	218	♂	49	1889~1939	千葉
10	31	♂	52	1875~1928	栃木	48	219	♂	46	1892~1939	栃木
11	49	♂	41	1887~1929	茨城	49	221	♂	34	1903~1938	栃木
12	52	♂	57	1872~1929	茨城	50	227	♂	83	1857~1941	千葉
13	58	♂	33	1896~1929	茨城	51	229	♂	76	1865~1941	茨城
14	60	♂	46	1883~1929	茨城	52	236	♂	24	1917~1941	千葉
15	78	♂	55	1875~1930	東京	53	237	♂	40	1900~1941	千葉
16	81	♂	66	1864~1930	茨城	54	239	♂	73	1868~1941	群馬
17	82	♂	38	1892~1930	埼玉	55	241	♂	28	1913~1941	神奈川
18	90	♂	35	1896~1931	群馬	56	244	♂	75	1866~1942	千葉
19	96	♂	37	1894~1931	群馬	57	245	♂	52	1889~1942	千葉
20	97	♂	31	1900~1931	栃木	58	246	♂	31	1910~1942	群馬
21	99	♂	49	1882~1931	千葉	59	248	♂	50	1892~1942	栃木
22	100	♂	37	1894~1931	茨城	60	249	♂	60	1881~1942	千葉
23	101	♂	21	1909~1931	千葉	61	251	♂	29	1912~1942	群馬
24	103	♂	55	1876~1932	千葉	62	253	♂	45	1897~1942	栃木
25	110	♂	59	1872~1932	千葉	63	255	♂	34	1907~1942	千葉
26	116	♂	59	1873~1932	千葉	64	262	♂	38	1905~1943	千葉
27	123	♂	32	1900~1933	千葉	65	265	♂	23	1919~1943	千葉
28	128	♂	71	1861~1933	千葉	66	269	♂	66	1877~1943	千葉
29	132	♂	53	1879~1933	千葉	67	270	♂	52	1891~1944	栃木
30	138	♂	44	1889~1933	東京	68	272	♂	30	1914~1944	栃木
31	141	♂	41	1892~1934	栃木	69	275	♂	44	1899~1944	神奈川
32	145	♂	61	1873~1934	栃木	70	284	♂	20	1923~1944	茨城
33	146	♂	45	1889~1934	千葉	71	285	♂	33	1910~1944	栃木
34	150	♂	28	1906~1934	茨城	72	136	♂	24	1909~1933	茨城
35	151	♂	30	1904~1934	群馬	73	182	♂	20	1916~1936	栃木
36	155	♂	41	1892~1934	茨城	74	197	♂	45	1892~1937	栃木
37	158	♂	42	1892~1934	埼玉	75	201	♂	33	1903~1937	茨城
38	170	♂	77	1858~1935	栃木	76	180	♂	23	1913~1936	茨城

第2表 検査材料表 (女性)

整理番号	標本番号	性別	年齢	生存年代	原籍	整理番号	標本番号	性別	年齢	生存年代	原籍
1	11	♀	60	1866~1927	千葉	13	127	♀	66	1866~1933	栃木
2	12	♀	51	1876~1927	千葉	14	137	♀	79	1853~1933	栃木
3	33	♀	22	1906~1928	千葉	15	142	♀	80	1853~1934	千葉
4	62	♀	23	1906~1929	群馬	16	174	♀	70	1866~1936	千葉
5	68	♀	36	1893~1929	茨城	17	175	♀	20	1915~1936	茨城
6	91	♀	25	1906~1931	千葉	18	192	♀	32	1905~1937	千葉
7	104	♀	48	1883~1932	栃木	19	204	♀	27	1910~1938	東京
8	106	♀	43	1888~1932	東京	20	231	♀	80	1851~1931	千葉
9	112	♀	44	1887~1932	埼玉	21	252	♀	68	1873~1942	千葉
10	114	♀	56	1876~1932	栃木	22	254	♀	64	1878~1942	千葉
11	117	♀	76	1855~1931	栃木	23	149	♀	56	1871~1927	茨城
12	120	♀	58	1874~1932	千葉						

の記載に於て、余の成績を関東頭蓋又は関東日本人、大槻のそれを北陸頭蓋又は北陸日本人、宮本のそれを畿内頭蓋又は畿内日本人、原のそれを九州頭蓋又は九州日本人、足立のそれを中国頭蓋又は中国日本人と命名し、余の成績とそれらの他地方日本人との成績を比較検討した。尚北海道アイノの成績は小金井の業績によつた。

その成績を列挙すれば次の通りである。

第1節 脳頭蓋計測

第1項 頭蓋容積

この計測には著者は最も小粒で同時に同大の球形に近い大豆を選んで用いたが、森田は鉛散弾を用いている。宮本及び大槻はその使用材料について何ら記載していないが、後者は恐らく穀粒を使用したものと推定される。第3表によつて明らかなように著者の関東日本人の頭蓋容積は男女両性共に相当大きく所謂 Aristenkephal に属するものである。之を他地方人頭蓋の成績と比較するに畿内頭蓋は関東頭蓋と同様に男女両性共に Aristenkephal に属するが、その数値は後者よりも大きく、又北陸頭蓋は之に反して男女両性共に Euenkephal に属し、その数値は関東頭蓋と比較して男性に於ては約 50 cc、女性に於ては約 30 cc 小である。次に森田の関東日本人に於ける頭蓋容積は鉛散弾を用いたため、その成績 (♂ 1551.8 ± 9.48, ♀ 1368.0 ± 13.06) から男性で 100 cc、女性で 80 cc を引くときには男性は Aristenkephal であるが女性は Euenkephal に属するものと述べられている。しかして上記の成績から男性で 100 cc、女性で 80 cc を引くときには男

性で 1452 cc、女性で 1288 cc となり北陸頭蓋に最も近い数値となつて著者の関東頭蓋とは勿論他地方人頭蓋とも著しく相違する。次に中国及び九州頭蓋は何れも Aristenkephal に属するものであるがその中前者は男性に於ける数値は関東頭蓋に於けるよりも少く、之に反して女性に於ける数値は関東頭蓋よりも大きい。しかして九州頭蓋の数値は男女両性共に関東頭蓋よりも大きい。従つて各地方人頭蓋の男性に於ける数値を比較するとき、九州頭蓋が最も大きく畿内及び関東頭蓋が之に次ぎ、中国頭蓋はそれよりも更に小さく、北陸頭蓋は最も小さい。しかるに女性に於ては畿内頭蓋は最も大きく、九州及び中国頭蓋は之に次ぎ、関東頭蓋はそれよりもかなり小さく北陸頭蓋は最も小さい。

之を Martin 表 (S. 746) に比較するに著者の関東頭蓋はアジア人種中上位の容積を示し、Torguten (♂ 1489 ♀ 1491) と Buriaten (♂ 1496 ♀ 1491) の中間に位するものであつて、大槻の北陸日本人が同様アジア人種中に於て Telengeten (♂ 1429, ♀ 1269) と Chinesen (♂ 1456, ♀ 1380) の間に位するのとは著しく相違する。

著者の関東日本人の頭蓋容積を Sarasin の方法により分類すれば、第4表に示される通りであるが之を大槻の北陸頭蓋のそれと比較するときかなりの相違が認められる。即ち前者に於ては男性 Euenkephal 39.4%, Aristenkephal 59.2% であるのに対し後者に於ては男性 Euenkephal 53.3%, Aristenkephal 43.3% で、その関係が反対になつている。しかるに関東頭蓋の女性に於てはその平均値は Aristenkephal に属するにも拘わらず第4表によ

第3表 計 測 成 績

	n		M±m				σ		V		max. — min.	
	♂	♀	♂	♀	♂~♀	D/ mdiff	♂	♀	♂	♀	♂	♀
頭 蓋 容 積	71	22	1491.06±12.15	1302.27±25.54	188.79±28.18	6.70	103.28	119.78	6.93	9.20	1770—1260	1450—1070
全 頭 蓋 重 量	71	22	713.59±13.90	577.68±25.22	135.91±28.90	4.70	117.14	119.82	16.42	20.74	1019—430	850—330
下 顎 重 量	75	23	97.67±1.42	76.00±2.83	21.67±3.17	6.83	12.31	13.60	12.60	17.89	142—68	110—50
頭 蓋 下 顎 重 量 示 数	71	22	13.46±0.17	13.00±0.38	0.46±0.42	1.10	1.43	1.80	10.62	13.85	18.1—10.1	16.9—9.4
頭 蓋 最 大 長	71	22	181.68±0.62	174.14±1.21	7.54±1.36	5.54	5.28	5.67	2.91	3.26	198—169	184—162
クラベローイニオン長	71	22	177.46±0.69	162.45±1.49	15.01±1.64	9.15	5.83	5.98	3.29	3.68	191—163	181—157
ナジオン—イニオン長	71	22	172.93±0.69	164.55±1.24	8.38±1.42	5.90	5.90	5.81	3.41	3.53	171—157	176—153
ナシオン—ラムダ長	71	22	174.70±0.60	167.59±1.33	7.11±1.46	4.87	5.13	6.26	2.94	3.74	189—163	180—151
グラベローラムダ長	71	22	176.32±0.60	167.91±1.21	8.41±1.35	6.23	5.11	6.01	2.90	3.58	190—165	179—152
基 部 底 長	71	21	25.06±0.27	22.00±0.37	3.06±0.46	6.65	2.32	1.69	9.26	7.68	31—21	25—19
大 後 頭 孔 長	71	21	35.76±0.25	34.91±0.38	0.85±0.45	1.89	2.16	1.74	6.04	4.98	41—31	38—32
頭 蓋 基 底 長	71	21	103.14±0.49	95.81±0.89	7.33±1.02	7.18	4.18	4.07	4.05	4.25	114—94	105—88
頭 蓋 最 大 幅	71	22	142.04±0.66	135.95±1.07	6.09±1.26	4.83	5.59	5.03	3.94	3.70	156—129	149—127
最 小 前 頭 幅	71	22	95.35±0.56	91.18±0.87	4.17±1.03	4.05	4.73	4.06	4.96	4.45	107—84	99—83
最 大 前 頭 幅	71	22	117.14±0.65	111.91±1.06	5.23±1.24	4.22	5.53	4.99	4.72	4.46	134—107	125—104
両 耳 幅	71	22	127.21±0.59	119.77±1.02	7.44±1.18	6.31	4.98	4.76	3.91	3.97	140—116	128—110
最 大 後 頭 幅	71	22	109.55±0.48	105.64±0.61	3.91±0.78	5.01	4.06	2.84	3.71	2.69	123—101	112—101
乳 様 突 起 間 幅	71	22	104.11±0.62	98.45±0.91	5.66±1.00	5.66	5.27	4.27	5.06	4.34	117—92	106—91
大 後 頭 孔 幅	71	21	29.80±0.25	28.52±0.40	1.28±0.46	2.78	2.14	1.82	7.18	6.38	35—25	31—26
バジオン—ブレグマ高	71	21	139.13±0.54	131.05±0.87	8.08±1.02	7.92	4.58	3.98	3.29	3.04	149—126	139—124
直 高	71	21	140.37±0.57	132.71±0.94	7.76±1.10	7.05	4.83	4.30	3.44	3.24	150—126	141—126
耳 ブレグマ高	71	22	116.70±0.60	109.95±0.86	6.75±1.05	6.43	5.03	4.04	4.31	3.67	131—106	120—103
直 耳 高	71	22	118.13±0.58	111.95±0.97	6.18±1.13	5.47	4.92	4.56	4.16	4.07	132—107	123—106
ナジオン—イニオン線上穹頂高	71	22	105.34±0.61	101.77±1.06	3.57±1.22	2.93	5.22	4.97	4.96	4.88	118—93	111—92
グラベローラムダ線上穹頂高	71	22	65.75±0.56	62.95±1.01	2.80±1.15	2.43	4.77	4.74	7.25	7.53	82—50	73—51
グラベローイニオン線上穹頂高	71	22	101.30±0.66	96.23±1.11	5.07±1.31	3.90	5.65	5.19	5.58	5.39	117—88	107—85
頭 蓋 長 幅 示 数	71	22	78.15±0.42	78.40±0.66	0.25±0.78	0.32	3.61	3.08	4.62	3.93	87.6—71.6	84.1—73.8

頭蓋長高示数	71	21	76.79±0.35	75.35±0.57	1.44±0.67	2.15	2.96	2.62	3.85	3.48	82.3—68.4	79.8—70.2
頭蓋幅高示数	71	21	98.04±0.51	96.45±0.88	1.59±1.02	1.56	4.35	4.02	4.44	4.17	108.9—85.7	105.4—90.6
頭蓋長耳ブレグマ高示数	71	22	64.69±0.33	63.18±0.46	1.51±0.57	2.65	2.80	2.16	4.33	3.42	71.0—58.2	66.1—59.1
頭蓋幅耳高示数	71	22	82.51±0.49	80.68±0.69	1.83±0.85	2.15	4.11	3.23	4.98	4.00	97.8—73.6	86.3—74.8
穹頂高示数(G. I. L)	71	22	57.06±0.47	57.18±0.72	0.12±0.87	0.14	3.94	3.39	6.91	5.93	68.1—48.9	64.1—50.8
穹頂高示数(N. I. L)	71	22	60.91±0.47	61.68±0.72	0.77±0.87	0.87	3.94	3.37	6.47	5.46	73.0—52.0	68.0—54.0
水平周径	71	22	518.35±1.42	498.32±3.36	20.03±3.65	5.49	12.05	15.74	2.32	3.16	555—492	524—467
正中矢状弧	71	21	373.16±1.38	360.36±3.07	12.80±3.36	3.81	11.71	14.09	3.14	3.91	396—337	390—329
横弧	71	22	320.70±1.23	307.50±2.17	13.20±2.49	5.30	10.35	10.18	3.23	3.31	352—293	332—290
正中矢状前頭弧	71	22	127.66±0.64	121.91±1.42	5.75±1.56	3.69	5.44	6.67	4.26	5.47	143—115	139—112
正中矢状頭頂弧	71	22	126.88±0.88	121.77±1.71	5.11±1.92	2.66	7.48	8.01	5.90	6.58	150—105	137—106
正中矢状後頭弧	71	21	119.39±0.91	116.41±1.65	2.98±1.88	1.59	7.77	7.54	6.51	6.48	142—103	141—108
正中矢状前頭弦	71	22	111.65±0.54	106.82±1.03	4.83±1.16	4.16	4.57	4.81	4.09	4.50	124—103	121—97
正中矢状頭頂弦	71	22	113.03±0.71	109.77±1.30	3.26±1.48	2.20	6.06	6.11	5.36	5.57	129—99	122—99
正中矢状後頭弦	71	21	100.21±0.66	97.95±1.04	2.26±1.20	1.88	5.62	4.78	5.61	4.88	120—90	111—91
前頭側面角	71	22	83.63±0.56	84.68±0.83	1.05±1.00	1.05	4.73	3.89	5.66	4.59	92—70	91—76
前頭傾斜角	71	22	60.38±0.33	60.82±0.64	0.44±0.72	0.61	2.77	2.99	4.59	4.92	67—55	67—56
グラベローブレグマ角	71	22	58.77±0.44	59.23±0.67	0.46±0.80	0.58	3.69	3.13	6.28	5.28	71—51	67—55
ラムダーイニオン角	70	22	92.20±0.51	94.14±0.90	1.94±1.03	1.88	4.26	4.20	4.62	4.46	103—82	104—85
横頭蓋穹隆示数	71	22	39.76±0.18	38.13±0.35	1.63±0.39	4.18	1.55	1.63	3.90	4.27	43.9—36.1	42.1—35.7
横前頭示数	71	22	81.46±0.41	81.50±0.67	0.04±0.79	0.05	3.47	3.15	4.26	3.86	87.9—72.4	87.4—74.6
横前頭頭頂示数	71	22	67.25±0.44	66.95±0.65	0.66±0.78	0.85	3.78	3.06	5.62	4.57	77.9—59.0	74.4—59.0
横頭頂後頭示数	71	22	77.07±0.41	77.18±0.48	0.11±0.62	0.18	3.47	2.23	4.50	2.89	87.9—68.0	85.0—72.1
矢状前頭頭頂示数	71	22	99.68±0.83	100.13±1.50	0.45±1.72	0.26	7.03	7.02	7.05	7.01	114.8—79.1	117.2—84.7
矢状前頭後頭示数	71	21	93.68±0.80	95.50±1.45	1.82±1.66	1.10	6.76	6.61	7.22	6.92	110.0—79.7	114.8—84.4
矢状頭頂後頭示数	71	21	94.51±1.17	95.81±2.38	1.30±2.65	0.49	9.97	10.90	10.55	11.38	125.5—76.5	127.2—80.0
前頭矢状弧示数	71	21	34.26±0.15	34.07±0.38	0.19±0.34	0.56	1.27	1.73	3.71	5.08	38.7—31.8	40.3—31.4
頭頂矢状弧示数	71	21	34.00±0.23	33.83±0.41	0.17±0.47	0.36	1.92	1.89	5.65	5.59	38.7—28.4	37.6—29.4
後頭矢状弧示数	71	21	31.90±0.21	32.31±0.40	0.41±0.45	0.91	1.79	1.83	5.61	5.66	36.6—28.8	37.6—29.8
水平周高示数	71	21	26.91±0.10	26.26±0.20	0.65±0.22	2.96	0.86	0.92	3.20	3.51	28.0—24.0	27.0—24.0
頭蓋幅兩耳幅示数	71	22	89.68±0.32	87.36±0.58	2.32±0.66	3.52	2.72	2.71	3.03	3.10	94.1—83.8	94.0—81.2
大後頭孔示数	71	22	83.42±0.70	84.59±1.13	1.17±1.33	0.88	5.98	5.31	7.12	6.28	97.0—70.3	96.9—76.4

矢状	前頭	示数	71	22	87.45±0.24	87.72±0.39	0.27±0.46	0.59	2.07	1.84	2.37	2.10	93.7—80.5	91.1—83.0
矢状	頭頂	示数	71	22	89.17±0.28	90.13±0.36	0.96±0.45	2.13	2.40	1.69	2.69	1.88	95.9—80.2	93.7—87.2
矢状	後頭	示数	71	21	84.35±0.37	84.45±0.42	0.10±0.82	0.12	3.15	1.93	3.73	2.25	95.0—78.8	87.0—79.3
後頭	幅高	示数	71	21	91.59±0.68	92.69±0.90	1.10±1.13	0.97	5.81	4.10	6.34	4.42	114.2—81.3	102.8—85.0
顔下		長	61	16	100.39±0.80	93.25±0.99	7.14±1.27	5.62	6.22	3.94	6.20	4.23	111—83	100—85
上	顔	長	43	8	110.58±0.73	103	-	-	4.77	-	4.73	-	120—98	109—99
兩	眼	幅	71	23	105.58±0.50	100.04±0.73	5.54±0.88	6.30	4.27	3.49	4.04	3.49	117—97	109—96
顴	骨	幅	71	23	98.62±0.48	94.91±0.67	3.71±0.82	4.52	4.06	3.22	4.12	3.39	108—91	102—89
中	弓	幅	71	23	136.15±0.60	125.30±0.94	10.58±1.12	9.69	5.07	4.50	3.72	3.59	152—124	138—118
顔	顔	幅	71	23	99.07±0.59	95.00±0.74	4.07±0.95	4.28	5.05	3.53	5.10	3.72	113—87	101—86
上		高	43	8	125.78±0.93	116.13			6.12		4.87		141—109	125—102
後	眼	間	58	16	72.48±0.55	68.75±1.03	3.73±1.17	3.19	4.18	4.11	5.77	5.98	85—62	73—58
前	窩	間	59	18	24.56±0.38	23.33±0.42	1.23±0.57	2.16	2.88	1.81	11.73	7.72	35—20	26—20
眼	窩	間	71	23	19.52±0.22	18.96±0.32	0.56±0.39	1.44	1.82	1.55	9.32	8.18	27—16	22—16
眼	窠	幅 (mf.-ek.)	71	23	42.25±0.22	39.96±0.31	2.29±0.38	6.00	1.88	1.49	4.45	3.73	46—38	43—37
同		上	71	23	42.17±0.23	39.61±0.34	2.56±0.41	6.24	1.90	1.62	4.51	4.09	47—38	43—37
眼	窠	幅 (la.-ek.)	63	18	39.19±0.21	37.89±0.36	1.30±0.42	3.10	1.67	1.52	4.26	4.01	43—35	40—35
同		上	64	19	39.30±0.21	37.79±0.38	1.51±0.43	3.51	1.70	1.64	4.33	4.34	44—36	41—35
眼	窠	高	71	23	34.46±0.25	34.43±0.32	0.03±0.41	0.07	2.12	1.53	6.15	4.44	40—30	37—32
同		上	71	23	34.49±0.24	34.57±0.29	0.08±0.38	0.21	2.03	1.41	5.89	4.08	40—30	37—32
鼻		幅	71	23	25.86±0.23	26.00±0.44	0.14±0.50	0.28	1.91	2.12	7.39	8.15	34—22	30—22
梨		高	71	23	52.27±0.37	49.39±0.49	2.88±0.61	4.72	3.10	2.35	5.93	4.76	61—45	54—43
鼻	狀	口	70	23	30.59±0.30	27.26±0.38	3.33±0.48	6.94	2.49	1.80	8.14	6.60	37—24	30—23
鼻	骨	小	71	23	7.34±0.21	8.13±0.28	0.79±0.35	2.26	1.78	1.33	24.25	16.36	12—4	11—6
上	骨	大	71	23	17.87±0.17	18.30±0.31	0.43±0.35	1.23	1.48	1.48	8.28	8.09	20—4	22—16
上	顎	齒	57	18	53.84±0.40	50.11±0.54	3.73±0.67	5.57	3.03	2.31	5.63	4.61	60—45	53—43
口	顎	齒	59	16	66.20±0.60	61.06±0.97	4.60±1.14	4.04	4.60	3.86	6.95	6.32	80—57	71—53
口		蓋	65	19	44.31±0.41	41.58±0.50	2.73±0.65	4.20	3.32	2.18	7.49	5.24	52—35	45—38
髁	狀	蓋	56	14	40.46±0.44	37.79±0.75	2.67±0.87	3.07	3.28	2.81	8.11	7.44	49—34	43—33
筋	突	突	76	23	124.37±0.62	116.39±1.10	7.98±1.26	6.33	5.40	5.30	4.34	4.55	137—111	129—104
下	顎	起	76	23	102.00±0.56	95.30±0.81	6.70±0.98	6.84	4.90	3.90	4.80	4.09	115—89	102—85
頤		角	76	23	98.55±0.66	89.30±1.04	9.25±1.23	7.52	5.76	4.99	5.85	5.58	111—83	97—79
		高	63	19	36.67±0.34	33.42±0.73	3.25±0.81	4.01	2.69	3.17	7.34	9.49	43—29	37—26

頤		幅	76	23	47.49±0.25	46.13±0.47	1.36±0.53	2.57	2.15	2.25	4.53	4.88	52—42	50—41							
下	齶	枝	高	右	76	23	64.68±0.61	58.40±1.05	6.28±1.21	5.19	5.28	5.02	8.16	8.60	77—48	65—50					
同			上	左	76	23	64.53±0.60	57.96±0.69	6.57±0.91	7.22	5.22	3.29	8.09	5.68	76—48	64—51					
筋	突	起	高	右	76	23	62.18±0.66	55.52±0.98	6.66±1.18	5.64	5.73	4.69	9.22	8.45	73—47	70—46					
同			上	左	76	23	61.76±0.63	54.84±0.97	6.92±1.16	5.97	5.53	4.66	8.95	8.49	73—47	68—47					
下	齶	截	痕	高	右	76	23	14.83±0.24	13.22±1.19	1.61±1.31	1.23	2.05	5.71	13.82	43.19	20—11	16—10				
同			上	左	76	23	14.76±0.22	12.57±1.18	2.19±1.37	1.65	1.90	5.66	12.87	45.03	19—11	16—9					
下	齶	截	痕	幅	右	76	23	34.74±0.36	33.14±0.74	1.60±0.82	1.95	3.11	3.45	8.95	10.41	43—27	39—25				
同			上	左	76	22	34.71±0.37	31.95±0.63	2.70±0.73	3.70	3.25	2.96	9.36	9.26	43—28	37—26					
下	齶	枝	幅	右	76	23	33.26±0.43	30.96±1.10	2.30±1.18	1.95	3.77	5.26	11.33	16.99	42—23	43—24					
同			上	左	76	23	33.55±0.40	31.09±1.08	2.46±1.15	2.14	3.52	5.16	10.49	16.60	44—25	43—25					
全	側	面	角(顔面角)		58	16	82.78±0.40	83.13±0.72	0.35±0.82	0.43	3.06	2.89	3.70	3.48	88—73	88—78					
鼻	側	面	角		71	23	85.94±0.38	85.61±0.61	0.33±0.72	0.46	3.21	2.93	3.74	3.42	95—77	91—80					
鼻	背	側	面	角	68	23	63.22±0.68	65.43±1.01	2.21±1.22	1.81	5.64	4.84	8.92	7.40	79—51	77—54					
下	齶	枝	角	右	76	23	128.99±0.77	131.00±1.84	2.01±1.99	1.01	6.70	8.82	5.19	6.73	147—118	148—104					
同			上	左	76	23	129.30±0.73	131.57±1.68	2.27±1.85	1.23	6.83	8.07	5.28	6.13	144—118	146—106					
コ	ル	マ	ソ	顔	面	示	数	43	8	91.66±0.70	92.07	-	4.61	-	5.03	-	100—80	99—79			
ウ	ィ	ル	ヒ	ヨ	ウ	顔	面	示	数	43	8	125.50±0.90	118.83	-	7.69	-	6.13	-	139—110	127.5—104.1	
コ	ル	マ	ソ	上	顔	面	示	数	58	16	53.17±0.41	54.58±0.88	1.41±0.96	1.47	3.09	3.53	5.81	6.47	60.0—45.9	59.5—45.0	
ウ	ィ	ル	ヒ	ヨ	上	顔	面	示	数	58	16	72.90±0.65	71.60±1.15	1.30±1.32	0.95	4.93	4.60	6.76	6.42	82.5—62.6	78.4—59.1
頰	骨	前	頭	示	数	71	22	86.0±0.58	89.50±0.80	3.50±0.99	3.54	4.96	3.73	5.77	4.17	101.5—77.7	100.0—81.9				
頰	骨	下	顎	示	数	71	23	73.06±0.42	71.36±0.53	1.70±0.68	2.50	3.53	4.45	4.83	6.24	81.0—61.5	79.3—59.9				
上	顎	齒	槽	示	数	53	16	122.58±1.07	121.83±1.53	0.75±1.87	0.41	7.77	6.12	6.34	5.02	140.3—105.4	136.5—111.5				
口	蓋	示	数	55	14	90.62±1.35	92.09±1.48	1.47±2.03	0.72	10.00	5.55	11.63	6.03	125.7—69.2	116.2—75.0						
前	眼	窠	間	示	数	71	23	19.72±0.17	20.67±0.27	0.95±0.32	2.97	1.45	1.28	7.35	6.19	17.3—26.4	18.5—23.6				
眼	窠	示	数	右	71	23	81.68±0.49	86.41±0.94	4.73±1.06	4.63	4.16	4.49	5.09	5.20	90.0—73.0	91.2—74.4					
同			上	左	71	23	82.00±0.51	86.93±0.96	4.93±1.09	4.52	4.30	4.59	5.24	5.28	90.0—73.0	94.6—76.7					
鼻	示	数	71	23	49.80±0.48	53.02±1.11	3.22±1.21	2.66	4.07	5.31	8.17	10.02	63.0—40.0	67.4—46.2							
横	鼻	顔	面	示	数	71	23	19.09±0.16	20.75±0.35	1.66±0.38	4.37	1.36	1.68	7.12	8.10	22.4—16.4	24.0—17.6				
下	顎	幅	示	数	71	23	79.25±0.50	77.06±1.18	2.19±1.28	1.71	4.22	5.68	5.32	7.37	92.0—70.9	92.3—64.2					
下	顎	枝	示	数	右	71	23	50.90±0.61	53.41±1.20	2.51±1.35	1.86	5.21	5.74	10.24	10.75	61.8—40.4	66.1—42.6				
同			上	左	71	23	52.01±0.68	53.93±1.22	1.92±1.40	1.37	5.78	5.86	11.11	10.87	66.7—38.6	67.2—43.3					
顎	示	数	61	16	97.30±0.57	96.89±0.95	0.41±1.11	0.37	4.46	3.79	4.58	3.91	84.3—16.9	102.1—89.3							

第4表 頭蓋容積分類表

分 類	性別		性別	
	n	♂	♀	n
		71		22
Oligenkephal	1	1.4±1.4	2	9.1±6.1
Euenkephal	28	39.4±5.8	11	50.0±33.7
Aristenkephal	41	59.2±5.8	9	40.9±33.1

れば Euenkephal 50.0%, Aristenkephal 40.9% を示し北陸頭蓋の女性に於ける Euenkephal 55.0%, Aristenkephal 40.0% と略々同様な関係を示している。換言すればこの両地方人の女性に於ては Euenkephal の方が Aristenkephal よりも多い。

尚関東日本人の頭蓋容積について男女両性の間に確差を示し、従つて、性別は極めて明らかであつて男性は女性よりも容積が著しく大である。

第2項 頭蓋重量

脱落及び紛失歯牙に対しては宮本氏にならい F. Sarasin に従い門歯 1g, 犬歯 1.5g, 小臼歯 1g, 大臼歯 2.3g として加算した。その成績は第3表の通りであるがこの数値の判断に対しては充分なる考慮が必要であろう。即ち個々の頭蓋骨の標本製作に當つてその晒方がまちまちであることはいうまでもないが、更に高年令のものに於ては齒槽突起の退化等の要素を考慮に入れなければならない。従つてこの頭蓋重量に関する数値は色々の不正確なる要素を包含するものとして取扱はなければならない。之だけのことを前提としてこの問題を考えてみたい。尚森田の報告には全頭蓋重量及び下顎重量は共に記載されていない。

全頭蓋重量

関東頭蓋は男性に於ては畿内頭蓋よりも軽いが北陸頭蓋よりも重く女性に於ては畿内頭蓋及び北陸頭蓋の何れよりも軽い。しかして、男女両性の間には明らかな確差を示し、いうまでもなく男性の方が女性よりも重い。之を Martin 表 (S. 727) に比較すれば日本人頭蓋 (Pelletier) は ♂ 700, ♀ 619 (差 81) であるが著者の関東頭蓋は ♂ 714, ♀ 578 (差 136) で、Tamilen (Sarasin) ♂ 711, ♀ 566 (差 145) と Russen (Oppenheim) ♂ 729, ♀ — の中間に位する。

下顎重量

関東下顎は男性に於ては北陸下顎及び畿内下顎の何れよりも重い女性に於ては畿内下顎よりも軽く、北陸下顎よりも重い。しかして男女両性の間には明らかな確差を示し男性の方が女性よりも重い。

之を Martin 表 (S. 728) に比較すれば日本人下顎 (Pelletier) は ♂ 91, ♀ 83 (差 8) であるが著者の関東日本人は ♂ 98, ♀ 76 (差 22) で Australier (Brachebusch) ♂ 94, ♀ 80 (差 14) と Russen (Oppenheim) ♂ 99, ♀ — の中間に位する。

頭蓋下顎重量示数

男女両性とも各地方人に於て殆んど差異が認められない、たゞ強いて言えば畿内日本人は関東日本人及び北陸日本人の何れよりも小さい。しかして男女両性の間には関東日本人は勿論として何れの地方人に於ても確差が存在しない。之を Martin 表 (S. 729) に比較すれば関東日本人は Elsässer (Rebentisch) ♂ 12.2, ♀ 10.7 と Italiener (Morselli) ♂ 13.7, ♀ 12.6 との中間に位するが後者の方に近い。

第3項 脳頭蓋長径

(1) 頭蓋最大長

関東頭蓋に於ける頭蓋最大長は男性では北陸及び九州頭蓋に次いで第3位を示し、中国及び畿内頭蓋よりも大きい女性では九州頭蓋について第2位を示し北陸、中国及び畿内頭蓋よりも大きい。しかるに森田の成績は男女両性共に略々畿内頭蓋と同様の数値を示し著者の関東頭蓋とは相当の開きを示している。尚関東頭蓋に於ては男女両性の間に明らかな確差を示し男性の方が女性よりも大きい。

関東頭蓋最大長を Martin 表 (S. 765) についてみれば略々その中央に在つて Fan (Poutrin) ♂ 180, ♀ 171 と Paltacalo-Indianer (Rivet) ♂ 182, ♀ 176 の中間に位する。しかるに森田のそれは Schweizer (Pittard) ♂ 178, ♀ 172 と Wedda (Sarasin) ♂ 179, ♀ 174 の中間に位するものであり余の成績と相当相違している。

(2)

グラベローイニオン長, ナジオン—イニオン長, グラベローラムダ長, ナジオン—ラムダ長, 基底部長, 大後頭孔長。

グラベローイニオン長

関東頭蓋に於ては男女両性共に畿内頭蓋よりも大きい、北陸頭蓋よりは小さく、殊に女性に於て確差 (差=3.05) が認められ、明らかな地方差を示している。しかるに森田の成績は女性に於ては余のそれと略一致するが男性に於てはかなり小さく畿内頭蓋に接近している。尚、関東頭蓋においては明らかな性別が認められる。

ナジオン—イニオン長

関東頭蓋は男性に於ては北陸頭蓋よりも少しく小

さいが女性に於ては関東頭蓋の方が北陸頭蓋よりも大きい。しかして畿内頭蓋は前二者よりも遙かに小さい。関東頭蓋に於ては明らかに性別が認められる。

グラベローラムダ長

関東頭蓋は男女両性とも北陸頭蓋と同様の数値を示すが畿内頭蓋よりは大きく、明らかな性別を示している。しかるに森田の場合に於ては畿内頭蓋と略々同様の数値を示し、余の成績とかなり相違する。

ナジオソーラムダ長

関東頭蓋は男女両性とも北陸頭蓋と同様の数値を示すが畿内頭蓋よりは少しく大きく、男女両性の間には明らかな確差が認められる。

基底部長

関東頭蓋は北陸頭蓋よりも僅かに小さいが畿内頭蓋よりはかなり小さく明らかな性別が認められる。

大後頭孔長

関東頭蓋は北陸頭蓋よりも少しく小さく畿内頭蓋よりも少しく大きく性別は存在しない。森田の成績は余のそれより少しく小さく畿内頭蓋に接近している。之を Martin 表 (S. 852) に比較するに表中の日本人は 36.5, 36.5 であつて余の関東頭蓋 35.7, 34.9 よりも少しく大きい。

(3) 頭蓋基底長

関東頭蓋の頭蓋基底長は男女両性共に九州頭蓋に次いで第2位を示し畿内及び北陸頭蓋よりも大きく明らかな性別を示している。しかるに森田の成績は女性では余の成績と略々一致するが男性ではかなり小さく北陸頭蓋に一致する。之を Martin 表 (S. 825) に比較するに関東頭蓋は表中の日本人 (Toldt) 103 に一致し世界人種中長い部類に属する。

第4項 脳頭蓋幅径

(1) 頭蓋最大幅

関東頭蓋に於ては表によりて明らかなように男性では各地方人頭蓋中第1位の数値を示し、畿内、中国、九州及び北陸頭蓋のいずれよりも大きい。女性では畿内、中国、及び九州頭蓋に次いで第4位を示し北陸頭蓋よりも大きい。しかるに森田の成績は女性に於ては余のそれと一致するが男性に於ては九州頭蓋と略々同様である。要するに関東頭蓋の頭蓋最大幅は男性では各地方人頭蓋中最も大きい。女性に於ては九州頭蓋と略々同様の値を示している。尚関東頭蓋に於ては明らかな性別が認められる。之を Martin 表 (S. 766) に比較すれば Teueriffa (142, 138) に略一致し、各人種中の中位に位す

る。

(2) 最小前頭幅, 最大前頭幅, 両耳幅。

最小前頭幅

関東頭蓋に於ては男女両性共に畿内頭蓋及び北陸頭蓋よりも大きく、明らかなる性別を示している。しかるに森田の成績は女性に於ては余のそれと一致するが男性に於ては少しく小さく畿内頭蓋に近い値を示している。

之を Martin 表 (S. 817) に比較するに、表中の日本人 (Toldt) 95, 92 という成績は余の関東日本人 95, 91 の成績と略々一致し、同表による Wedda (91, 91) から Bayern (101, 95) に到る各人種中の中位に位する。

最大前頭幅

関東頭蓋に於ては男女両性共に畿内頭蓋と略々同様の値を示すが、北陸頭蓋に比較すれば相当の大きさを示し殊に女性に於て確差 (差 = 7.21) が認められる。尚男女間には明らかな性別が存在し男性が女性よりも大きい。しかるに森田の成績は女性に於ては余のそれと一致するが男性に於ては少しく小さい。之を Martin 表 (S. 822) に比較すれば Alt-ägypter (113, 91) と Rumänen (118, 117) の中間に位する。

両耳幅

関東頭蓋に於て男女両性共に最高の値を示し、畿内及び北陸頭蓋よりも大きい。しかして北陸頭蓋との差異は男女両性共に絶対値 9mm の値を示し確差 (差 = 8.98, 9.95) が認められる。しかして男女両性の間には明らかな確差を示し、男性の方が女性よりも大きい。森田の成績は女性に於ては余のそれと略々一致するが男性に於ては絶対値に於て 2mm の差異を示し、畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大である。Martin (S. 826) の記載によれば両耳幅は Alpin-europäische Gruppe では 118—142mm の間に分布するが関東日本人 (127) は略々その中間の位置に存在するが、北陸日本人 (118) は大槻の記載する如く最狭の値を示すものである。

(3) 最大後頭幅, 乳様突起間幅, 大後頭孔幅

最大後頭幅

各地方人の間に男女両性を通じて大差はないが関東頭蓋が最も大きい値を示している。森田の成績は余のそれより少しく小さい。男女両性の間には明らかな確差を示し男性の方が女性よりも大きい。

乳様突起間幅

男女両性共に関東頭蓋が最も大きくその北陸頭蓋

との差異は絶体値に於て男女両性共に 4 mm である。尚性別は明らかであつて男性の方が女性よりも大きい。森田の成績(♂ 102.4, ♀ 97.6)は余の成績よりも小さく畿内頭蓋の成績に接近している。以上の成績を Martin 表(S. 826)に比較するに表中の日本人(♂ 103, ♀ 99)の成績は余の関東日本人(♂ 104, ♀ 98)の成績に大体一致し、各人種表の中央の位置に位する。

大後頭孔幅

各地方人頭蓋に於て男女共に大差がないが、北陸頭蓋が関東及び畿内頭蓋よりも僅かに大きい。性的差異は存在しない。尚森田の成績(♂ 29.8, ♀ 28.4)は余のそれと殆んど一致する。Martin 表(S. 852)によるも各人種間に殆んど差異がないように思われる。

第 5 項 脳頭蓋高径

(1) バジオン—ブレグマ高

日本人頭蓋に於けるバジオン—ブレグマ高は男性に於ては九州頭蓋が最も大きく、中国及び畿内頭蓋之に次ぎ、関東頭蓋は第 3 位を示し、北陸頭蓋は最も小さい。しかして関東頭蓋(♂ 139.13±0.54)と北陸頭蓋(134.5±0.79)の間には明らかな確差(差=4.82)が認められる。次に女性では中国頭蓋が第 1 位を示し、九州及び畿内頭蓋之に次ぎ、関東頭蓋は男性に於けると同様に第 3 位を示し、北陸頭蓋は最も小さい。しかして男性に於ける中国、畿内及び関東頭蓋は何れも 139 mm 台の数値を示しその差は極めて少く、又女性に於ける九州及び畿内頭蓋は中国頭蓋と大差がない。要するに各地方人頭蓋を比較するに北陸頭蓋の数値が最も低く、他の地方人頭蓋の間には大差が認められない。尚男性に於ける関東頭蓋と北陸頭蓋の間には前述の通り明らかな確差が存在することは注目に値する。

関東頭蓋を小金井の北海道アイノ(♂ 139.5, ♀ 134.9)と比較するとき、数値的には少しく小さい。更に関東頭蓋は小金井の朝鮮人頭蓋(♂ 141.9, ♀ 137.8)及び長谷部の朝鮮人頭蓋(♂ 140.4, ♀ 132.8)よりもかなり小さい。更に森田の成績(♂ 138.1, ♀ 132.5)は余の成績と大差がない。

以上の成績を Martin 表(S. 795)に比較すれば日本人のバジオン—ブレグマ高は著しく高く関東頭蓋は Neukaledonier (Sarasin) ♂ 139, ♀ 133 と同位に存在し各人種中の上位を占めている。関東頭蓋に於ける男女両性の間には明らかな確差を示し、男性が女性より大きい。

(2) 直高, 耳ブレグマ高, 直耳高。

直 高

をバジオン—ブレグマ高に比較すれば、関東頭蓋は男女両性共に前者の方が大きく、この関係は北陸及び畿内頭蓋に於ても同様であり又森田の成績に於ても同様である。しかして関東頭蓋直高は男女両性共に畿内頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりも著しく大きく、北陸頭蓋との間に明らかな確差(♂ 差=4.56, ♀ 差=3.34)を示している。森田の成績(♂ 140.6±0.41, ♀ 134.7±0.50)は男性に於ては余のそれと大差がないが、女性に於てはかなり大きい。

耳ブレグマ高及び直耳高

は何れもバジオン—ブレグマ高よりも小さく、直耳高は耳ブレグマ高よりも少しく大きい。関東頭蓋の耳ブレグマ高は男性では畿内頭蓋よりも少しく小さいが、北陸頭蓋よりは少しく大きい。女性では畿内頭蓋より小さいが、北陸頭蓋よりかなり大きく明らかな確差(差=4.18)が存在する。森田の成績(♂ 118.1±0.37, ♀ 113.8±0.50)は余の成績よりもかなり大きい。

関東頭蓋の直耳高は男性では畿内頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりは大きく、女性では畿内頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりはかなり大きい。森田の成績は(♂ 120.8±0.37, ♀ 116.6±0.49)余のそれよりもかなり大きいのみならず、畿内頭蓋よりも相当大きい。

以上の三高径は男女両性の間には明らかな確差を示し、男性の方が女性よりも大きい。

(3) ナジオン—イニオン線上(N. I. L.)穹頂高, グラベローラムダ線上(G. L. L.)穹頂高, グラベローイニオン線上(G. I. L.)穹頂高

之等三穹頂高のうち穹頂高(N. I. L.)最も高く、穹頂高(G. I. L.)は之より少しく低く、穹頂高(G. L. L.)は前二者よりも遙かに低い。関東頭蓋の穹頂高(N. I. L.)は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい。しかして森田の成績(♂ 108.8±0.46, ♀ 104.8±0.56)は男女共に余の成績より絶体値に於て 3 mm 高い。

関東頭蓋の穹頂高(G. L. L.)は畿内頭蓋と略々同様の数値を示すが、北陸頭蓋よりも大きい。森田の成績(♂ 65.5±0.37, ♀ 63.5±0.48)は余の成績と大差がない。

関東頭蓋の穹頂高(G. I. L.)は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい。森田の成績(♂ 103.5±0.44, ♀ 99.5±0.57)は余のそれに比較して男女両性共に少しく大きい。之等三穹頂高のうち穹頂高

(G. L. L.)を除き、他の両者は何れも明らかなる性別を示し、男性の方が女性よりも大きい。

要するに関東頭蓋の三穹頂高は何れも畿内頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりは大きく、之等地方人頭蓋の間に於ける地方的差異は傾向的に明らかに認められる。

第6項 脳頭蓋示数(其の1)

(1) 頭蓋長幅示数(第5表)

関東頭蓋に於ける余の成績は第3表に於て明らかのように 合 78.15±0.42, 女 78.40±0.66 であつて、森田の成績(合 78.5±0.33, 女 79.7±0.43)に比較すれば少々小さい。即ち関東頭蓋の平均値は男女両性共に短頭に近い中頭を示すが、その分類については後に述べることにしたい。

各地方人頭蓋の長幅示数を比較するに畿内頭蓋が第1位を示し、中国頭蓋之に次ぎ、関東頭蓋は第3位を占め、九州頭蓋は之より小さく、北陸頭蓋は最も小さい。たゞ女性に於ては男性と同様の序列を示すが北陸頭蓋の方が九州頭蓋より僅かに大きい。関東頭蓋を周囲人種と比較すると北海道アイノ(合 76.0, 女 77.3)よりも大きく、朝鮮人(合 81.9, 女 80.4)よりも小さい。しかして男女両性の間にはすべての地方人頭蓋を通じて確差は認められない。

次に長幅示数の分類法によりて、観察すれば、その関係は第5表の通りである。先づ関東頭蓋の男女両性に於ける関係をみるに、両者共中頭が最も多く、短頭が之に次ぎ、長頭は短頭よりも少い。しかるに森田の報告によれば、男性では中頭 49.7%, 短頭 29.3%, で大体余の成績と一致するが、女性では中頭 36.6%, 短頭 41.5% で短頭の方が中頭よりも多い。しかして超短頭が余の場合に於て 2.8%, 女

0 であるに対し、森田の成績に於ては 3.5%, 女 9.7% を示している。かかる成績の相違は恐らく研究材料の選択によるものとも考えられるが、注目し得る所見といわねばならない。要するに余の場合に於ては男女両性共に中頭が半数或いは過半数を占めて第1位を示すに対し、森田の場合に於ては男性では中頭が第1位であるが、女性では短頭が第1位を示している。更に関東日本人と他の他方人及び周囲人種との成績を通覧するに何れも中頭が最多数を示してはいるが、朝鮮人及び支那人は次に短頭が多く、長頭は 10% 以下である。北海道アイノは之と反対で、中頭について長頭が多く、短頭は 10% 以下である。次に日本人頭蓋の関係をみるに、北陸頭蓋は北海道アイノに類似して中頭について長頭が多く、短頭は 16% であつて、所謂 Meso-dolichocephal に属するが、畿内及び中国頭蓋は之に反して短頭が多く、長頭は 15% 以下であつて、所謂 Meso-brachycephal に属する。尚九州頭蓋は長頭と短頭との比が大差がなく長頭の方が少しく大きい。しかるに関東頭蓋に於ては短頭が長頭よりも多く後者は 20.4% である。要するに関東頭蓋は中頭が半数で第1位を示すが、短頭は 1/4 強、長頭は 1/5 であつて、全体として考察するとき、中頭を中心として短頭の方により多く傾いているが、かかる判断は超長頭が 0 であるに対し、超短頭が 2.2% であることによつても明らかに確認されよう。換言すれば、関東頭蓋は中頭を中心として長頭の要素も相当に持つが、短頭により多く傾いているものであつて、Meso-brachycephal に属するが、中国及び畿内頭蓋と比較して同じ Meso-brachycephal であるが、長頭の要素を相当有することによつて区別される。

第5表 頭蓋長幅示数分類表

	性	n	Hyperdolichocephal	Dolichocephal	Mesocephal	Brachycephal	Hyperbrachycephal	Ultrabrachycephal
関東日本人	合	71	0	22.5	49.3	25.4	2.8	0
	女	22	0	13.6	54.5	31.8	0	0
	合+女	93	0	20.4	50.5	26.9	2.2	0
北陸日本人	合+女	50	0	38.0	44.0	16.0	2.0	0
畿内日本人	合+女	50	0	14.0	38.0	34.0	14.0	0
中国日本人	合+女	89	0	14.6	42.7	33.7	3.4	1.1
九州日本人	合+女	89	1.1	25.8	48.3	20.2	4.5	0
北海道アイヌ	合+女	156	0	28.8	63.5	7.7	0	0
朝鮮人 (小金井)	合+女	12	0	5.9	41.2	35.3	11.8	5.9
支那人 (Haberer)	合+女	36	0	8.3	58.3	30.6	2.8	0

之に反して九州頭蓋は中頭を中心として短頭的要素を相当に持つが長頭により多く傾いているものであつて、所謂 *Meso-dolichocephal* に属するものと思われるも、北陸頭蓋とは同じ *Meso-dolichocephal* であるがその短頭的要素を相当有することによつて区別される。次に Martin 表 (S. 772-775) によれば、アジア人種中、足立の日本人は 78.3, 早 79.7 として、中頭の部類に、Baelz の日本人は 80.3; 早一として短頭の部類に表示されているが、余の関東頭蓋は勿論中頭の部類で、足立の日本人と北海道アイノとの中間に位するものである。

(2) 頭蓋長高示数 (第 6 表)

関東頭蓋は男女両性共に *Hypsikephal* に属し、 \bar{x} 76.79 \pm 0.35, 早 75.35 \pm 0.57 である。しかして北陸、畿内、中国、九州各日本人頭蓋について観察するに、男性では畿内頭蓋が第 1 位を示し、中国及び九州頭蓋は第 2 位、関東頭蓋は第 3 位を占め、北陸頭蓋は最も小さく、関東頭蓋と北陸頭蓋との間には明らかなる確差 (差 = 4.91) を示している。女性では中国頭蓋が第 1 位を示し、畿内頭蓋之に次ぎ、九州頭蓋と関東頭蓋とは第 3 位を占め、北陸頭蓋は最も小さい。要するに関東頭蓋の長高示数は男女両性共に北陸頭蓋よりは大きい、九州、中国、及び畿内頭蓋の何れよりも小さい。しかして森田の成績 (\bar{x} 77.3 \pm 0.27, 早 77.7 \pm 0.35) は男女両性共に余の成績よりも大きい。しかして周圀人種との関係をみるに、北海道アイノは \bar{x} 75.2, 早 76.4 の数値を示し、男性では関東頭蓋よりも小さいが、女性ではその反対である。朝鮮人頭蓋 (小金井) は \bar{x} 80.0, 早 82.2 であつて、何れも関東頭蓋よりも大きい。尚男女両性の間に於ては九州頭蓋に於てのみ確差が存在

し、他の地方人頭蓋には認められない。次に之等の頭蓋を長高示数によりて分類すれば第 6 表の通りであるが、先づ関東頭蓋の男女両性に於ける関係をみるに、何れも *Hypsikephal* が最も多く、*Orthocephal* が之に次ぎ、*Chamaecephal* は女性にのみ男性に 1 例のみである。しかして之を森田の成績と比較するに、男性に於ける余の成績 (*Hypsikephal* 76.1%, *Orthocephal* 22.5%) と森田のそれ (*Hypsikephal* 72.7%, *Orthocephal* 27.3%) は大差はないが、女性に於ては余の成績が *Hypsikephal* 57.1%, *Orthocephal* 42.9% であるのに対し、森田のそれが *Hypsikephal* 82.7%, *Orthocephal* 17.3% であつて著しく相違している。この女性に於ける成績の相違は研究材料数の多少によるものとも思われるが、畿内及び北陸頭蓋の研究材料数とも照し合わせて注目すべき所見であろう。

次に日本人及び周圀人種の成績を通覧するに北陸頭蓋に於てのみ *Orthocephal* が第 1 位を示すのみで、他の場合に於ては何れも *Hypsikephal* が大多数を示している。その中朝鮮人頭蓋は *Hypsikephal* 41.1% で最高を示し、*Orthocephal* は 5.9% にすぎない。畿内及び中国頭蓋は之に次いで *Hypsikephal* が多く、*Orthocephal* は 17% 以下であり、*Chamaecephal* は存在しない。しかして関東及び九州頭蓋並びに支那人頭蓋は *Hypsikephal* が前者よりも少く、*Orthocephal* は 27% 前後で、*Chamaecephal* は 2% 前後である。要するに関東頭蓋は長高示数の分類の關係に於て北陸頭蓋とは大いに異なるが、他の畿内及び中国頭蓋ともかなり相違し、九州頭蓋と近い關係を示している。北海道アイノは *Hypsikephal* が第 1 位であるが、*Orthocephal*

第 6 表 頭蓋長高示数分類表

	性	n	<i>Chamaecephal</i>	<i>Orthocephal</i>	<i>Hypsikephal</i>
関東日本人	♂	71	1.4	22.5	76.1
	♀	21	0	42.9	57.1
	♂+♀	92	1.1	27.2	71.7
北陸日本人	♂+♀	50	10.0	62.0	28.0
畿内日本人	♂+♀	50	0	12.0	88.0
中国日本人	♂+♀	89	0	16.9	83.2
九州日本人	♂+♀	89	2.3	25.8	71.9
北海道アイヌ	♂+♀	155	0.7	32.9	66.4
朝鮮人(小金井)	♂+♀	12	0	5.9	94.1
支那人(Haberer)	♂+♀	36	2.8	27.8	69.4

第7表 頭蓋幅高示数分類表

	性	n	Tapeinokephal	Metriokephal	Akrokephal
関東日本人	♂	71	9.9	42.3	47.9
	♀	21	14.3	57.1	28.6
	♂+♀	92	10.9	45.7	43.5
北陸日本人	♂+♀	50	20.0	44.0	36.0
畿内日本人	♂+♀	50	6.0	44.0	50.0
中国日本人	♂+♀	89	2.3	39.3	58.4
九州日本人	♂+♀	89	2.3	28.1	69.7
北海道アイヌ	♂+♀	156	1.9	41.0	57.1
朝鮮人(小金井)	♂+♀	12	0	47.1	52.9
支那人 (Haberer)	♂+♀	36	11.1	38.9	50.0

ephal も多く 32.9% を示し、各地方人とは違つた関係を示している。朝鮮人が関東日本人は勿論、他の地方人とも甚だしく相違していることはいふまでもない。支那人はむしろ数値の上では九州及び関東頭蓋と近い状態を示している。Martin 表 (S. 796—798) によれば日本人は最大の長高示数を有する部類に属するが、関東頭蓋は Hysikrane の表中で Westliche Eskimo (♂±♀ 76.6) と Nordwestgrönländer (♂ 76.9) の間に位する。

(3) 頭蓋幅高示数 (第7表)

関東頭蓋は男性では Akrokephal に、女性では Metriokephal に属し、♂ 98.04±0.51, ♀ 96.45±0.88 の数値を示している。之を森田の成績 (♂ 98.6±0.35, ♀ 97.7±0.45) と比較するとき僅かに小さい。各地方人の成績を通覧するに、男性では九州頭蓋は第1位、中国及び畿内頭蓋は第2位を占め、関東頭蓋は第3位を示し、北陸頭蓋は最も小さい。しかるに女性では、中国頭蓋が第1位、九州頭蓋が第2位、関東頭蓋は第3位を示し、畿内頭蓋之に次ぎ、北陸頭蓋は最も小さい。しかして男女両性の間に於ける確差は九州及び畿内頭蓋に於てのみ存在し、関東頭蓋を含む他の他方人頭蓋には認められない。

要するに関東頭蓋の幅高示数は九州及び中国頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりは大きく、畿内頭蓋に対しては男女により違つた関係を示している。

幅高示数によりて頭蓋を分類すれば、第7表の通りであるが、先ず関東頭蓋の男女両性の関係をみるに、男性では Akrokephal が最も多く、Metriokephal 之に次ぎ、女性ではその反対で Metriokephal が最も多く、Akrokephal が之に次ぎ、Tapeinokephal は両者共に最も少い。この成績

を森田のそれと比較するに、男女両性共に大体に於て同様の関係を示している。次に各地方人及び周囲人種を比較するに、関東及び北陸頭蓋を除く他の場合に於ては Akrokephal が最も多く、Metriokephal が之に次いでいるが、前二者に於ては Metriokephal が最も多く、Akrokephal がそれに次いでいる。しかして北陸頭蓋の Tapeinokephal が 20% であるのに対し、関東頭蓋のそれは 10% にすぎない。勿論関東頭蓋に於ける Metriokephal (45.7%), Akrokephal (43.5%) の数値は大きな差ではないが、前者の方が大きいことは明らかである。従つて幅高示数の分類の關係に於ては関東頭蓋は他の九州、畿内及び中国頭蓋と相違して北陸頭蓋に近い関係を示している。Martin 表 (S. 800—803) についてみれば関東頭蓋は Akrokrane の最下位に列するものであるが、世界人種 (Telengeten ♂ 85.6, ♀ 85.5— Russen ♂ 106, ♀ —) の中に於ては高位に位するものである。

(4) 頭蓋長耳ブレグマ高示数 (第8表)

関東頭蓋の長耳高示数は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも僅かに大きく、男女両性の間には確差は存在しない。しかして森田の成績 (♂ 66.1±0.24, ♀ 66.7±0.34) は余のそれよりも大きく、その差は約3である。Martin 表 (S. 798) によれば関東頭蓋は Telengeten (♂ 65.0) と Tatau (♂ 64.0)

第8表 頭蓋長耳ブレグマ高示数分類表

名	性		
	♂	♀	♂+♀
Chamaecephal	0	0	0
Orthocephal	63.4	45.5	59.1
Hysikephal	36.6	54.5	40.9

の間に位し各人種表の中位に位する。関東頭蓋を頭蓋長耳ブレグマ高示数によつて分類すれば第8表の通りであつて、男性に於ては Orthokephal が最も多く、Hypsikephal 之に次ぎ、女性ではその反対で Hypsikephal が Orthokephal よりも多く、Chamaecephal は男女両性に於て共に1例も認められない。

(5) 頭蓋幅耳ブレグマ高示数 (第9表)

関東頭蓋の幅耳高示数は北陸頭蓋よりも男性に於ては僅かに小さく、女性に於ては僅かに大きい、大差はなく、男女間の確差は存在しない。森田の成績 (合 84.2±0.28, 男 83.9±0.38) は余のそれに比較してかなり大きい。しかして関東頭蓋を幅耳高示数によつて分類すれば第9表の如く、男性では Metriokran 最も多く、Tapeinokran 之に次ぎ、Akrokran は最も少ないが、女性では Metriokran 及び Tapeinokran が同率を示し、Akrokran が最も少ない。

第9表 頭蓋幅耳ブレグマ高分類表

性	合	男	女
Tapeinokran	29.6	45.5	33.3
Metriokran	47.9	45.5	47.3
Akrokran	22.5	9.1	19.4

(6) 穹頂高示数 (G. I. L.), 穹頂高示数 (N. I. L.)

関東頭蓋の穹頂高示数 (G. I. L.) 北陸頭蓋よりも大きく、畿内頭蓋よりもかなり小さく、確差 (合 差 = 8.45, 男 差 = 5.91) が認められる。男女間に確差は存在しない。森田の成績 (合 60.2±0.35, 男 61.3±0.45) は余の成績よりかなり大きい。

関東頭蓋の穹頂高示数 (N. I. L.) は北陸頭蓋とは大差がないが、畿内頭蓋よりもはるかに小さく、確差 (合 差 = 9.23, 男 差 = 6.20) が認められる。男女間に確差は存在しない。

関東頭蓋の穹頂高示数 (G. I. L.) は Martin 表 (S. 809, Malaien 64.3-La Quina 39.1) に比較すれば各人種中の高位に位する。

第7項 周径、弧長及び弦長計測

(1) 水平周径

関東頭蓋は男性では北陸頭蓋よりも僅かに小さく畿内頭蓋よりもかなり大きい、女性では各地方人頭蓋中最も大きく、北陸頭蓋之に次ぎ畿内頭蓋は最も小さい。森田の成績 (合 513.7±1.26, 男 493.7±

1.59) は余の成績に比較すればかなり小さい。男女間には明らかな確差が認められ、男性が女性よりも著しく大きい。尚九州頭蓋 (合 511.6, 男 494.2) は畿内頭蓋と大差がない。しかして関東日本人は周囲人種と比較すれば、北海道アイノ (合 523.2, 男 506.8) と朝鮮人 (合 514.6, 男 483.4) の中間に位する。Martin 表 (S. 757) に比較すれば関東頭蓋は各人種中の中位に位し、Wogulen (合 518, 男 502) に相当するものである。

(2) 正中矢状弧

関東頭蓋は最も大きく、畿内頭蓋之に次ぎ、北陸頭蓋は最も小さい。しかして関東頭蓋と畿内頭蓋との差は極めて小さい。森田の成績 (合 371.7±0.99, 男 357.6±1.37) は余のそれに比較して男女両性共にかなり小さい。男女間には、明らかな確差が存在し、男性は女性よりも大きい。尚関東日本人を周囲人種と比較するに、北海道アイノ (合 373.3, 男 360.7) と略々一致し朝鮮人 (合 371.6, 男 360.2) より少しく大きい。Martin 表 (S. 759) に比較すれば関東頭蓋は各人種表の中央より少しく上位に位する。

(3) 横 弧

関東頭蓋は男性に於いては畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい、女性に於ては他地方人頭蓋と殆んど差異が認められない。尚男女両性の間には明らかな有意差が存在し、男性は女性よりも大きい。森田の成績 (合 324.4±0.90, 男 313.2±1.17) は余の成績に比較して著しく大きい。之を Martin 表 (S. 760) に比較すれば関東頭蓋は Telengeten (合 320, 男 308) の位置に位し、各人種表の中央より上位を占める。

(4) 正中矢状前頭弧, 正中矢状頭頂弧, 正中矢状後頭弧 (第10表, 第11表)

正中矢状前頭弧は関東頭蓋と畿内頭蓋とに於て殆んど同様な値を示し、北陸頭蓋よりは僅かに大きい。森田の成績も余のそれと大差がない。関東頭蓋

第10表 三弧の比較表

性	合	男	女
最弧長			
F	40.8	38.1	40.2
F 及び P	2.8	4.8	3.3
P	45.1	47.6	45.7
O	11.3	9.5	10.9
P 及び O	0	0	0
F 及び O	0	0	0

第11表 前頭, 頭頂, 後頭三弧の比較

	性別	n	F>P	F=P	F<P	F>O	F=O	F<O	P>O	P=O	P<O
関東日本人	♂	71	47.9	4.2	47.9	71.8	11.3	16.9	70.4	9.9	19.7
	♀	22	50.0	4.5	45.5	81.0	0	19.0	76.2	0	23.8
	♂+♀	93	48.4	4.3	47.3	73.9	8.7	17.4	71.7	7.6	20.7
北陸日本人	♂+♀	50	44	2	54	82	0	18	72	0	28
畿内日本人	♂+♀	50	48	4	48	80	2	18	76	2	22

に於ては男性が女性よりも大きく、確差が認められる。

正中矢状頭頂弧は各地方人頭蓋間に大差がなく男性では畿内頭蓋が最も大きく、関東頭蓋が之に次ぎ、女性では北陸頭蓋が最も大きく、関東頭蓋はそれよりも小さい。男女間に確差は存在しない。

正中矢状後頭弧は男性では北陸頭蓋が最も大きく、関東頭蓋が之に次ぎ、女性では関東頭蓋が最も大きく、北陸頭蓋が之に次ぐが之等の間に於ける差異は小さい。森田の成績も余のそれに略々一致する。関東頭蓋に於ては男女間の確差は存在しない。

しかしてこれら三弧の関係を、その頻度に於て求むれば、第10表の通りである。即ち男性ではPが最長のものが最も多く、Fが最長のものがこれに次ぐがその差はかなり少く、Oの最長のものは前の二者よりもはるかに少く、F及びPが同長でしかも最長なるものは極めて少い。この関係は女性に於いても略々同様である。次に第11表についてみるに関東頭蓋に於ては男性ではF>PとF<Pとは同率を示すが女性では前者の方が少く大きい。F=Pははるかに少い。尚男女合計に於いてはF>PはF<Pより僅かに大きい、その差は極めて少い。しかるに森田の場合に於いては男性ではF>PはF<Pよりも遙かに大きく、女性では同様に前者が後者よりも大きい。しかして男女合計に於てはF>P (54.9%)がF<P (40.2%)よりもかなり大きい。関東頭蓋の成績を他の地方人に比較するに畿内頭蓋の成績 (F>P 48%, F<P 48%)は関東頭蓋のそれに一致するが、北陸頭蓋の成績 (F>P 44%, F<P 54%)は関東頭蓋のそれと著しく相違する。

次にFとOとの関係をみるに関東頭蓋に於てF=Oが他地方人に比較して8.7%という高率を示していることは、かなりの特色とみられるが、それだけF>Oの出現率が北陸及び畿内頭蓋よりも少なくなっている。之を森田の成績 (F>O 79.9%,

F=O 2.7%, F<O 17.4%)と比較するとき、F=Oが著者の場合より少く、それだけF>Oが増加していることが注目される。

更にPとOとの関係を見るに関東頭蓋は畿内頭蓋に比較てP=Oが大きくそれだけP>Oが小さくなっていることが注目される。しかるに北陸頭蓋は関東頭蓋に比較するとP=Oが1例もなく、それだけP<Oが増加している。しかるに森田の成績 (P>O 76.8%, P=O 2.7%, P<O 20.5%)は余のそれと違い、P=Oが少くそれだけP>Oが増加している。

(5) 正中矢状前頭弦, 正中矢状頭頂弦, 正中矢状後頭弦 (第12表, 第13表)

前頭弦は関東頭蓋に於いては男性では畿内頭蓋よりも少く大きく、北陸頭蓋よりもかなり大きい、女性では畿内頭蓋が関東頭蓋よりも僅かに大きく、後者は北陸頭蓋よりも大きい。森田の成績は余のそれと大差がない。

頭頂弦は男性に於いては関東頭蓋は畿内頭蓋と等しく、北陸頭蓋よりも僅かに大きい、女性では之等の地方人の間に殆んど差異が認められない。森田の成績 (♂ 111.8, ♀ 108.6)は余のそれよりも小さい。

後頭弦は関東頭蓋に於ては男女両性共に畿内頭蓋と等しく、北陸頭蓋よりもかなり大きい。森田の成績は余のそれと大差がない。関東頭蓋に於ては前頭弦及び頭頂弦は男女間の確差を示すが後頭弦に於て

第12表 三弦の比較表

性	♂	♀	♂+♀
最弦長			
F	36.6	28.6	34.8
F及びP	4.2	0	3
P	54.9	66.7	57.6
O	2.8	4.8	3.3
P及びO	0	0	0
F及びO	1.4	0	1.1

第13表 前頭、頭頂、後頭三弦の比較

	性別	n	F>P	F=P	F<P	F>O	F=O	F<O	P>O	P=O	P<O
関東日本人	♂	71	38.0	5.6	56.3	93.0	1.4	5.6	90.1	1.4	8.5
	♀	23	36.4	0	63.8	95.2	0	4.8	90.5	0	9.5
	♂+♀	94	37.6	4.3	58.1	93.5	1.1	5.4	90.2	1.1	8.7
北陸日本人	♂+♀	50	30.0	6.0	64.0	94.0	2.0	4.0	92.0	2.0	6.0
畿内日本人	♂+♀	50	36.0	4.0	60.0	96.0	0	4.0	90.0	2.0	8.0

は、それが認められない。

次に之等の三弦を最長弦の出現頻度及び二つづつの相互関係についてみれば最長弦は男性ではPが最も多くFが之に次ぎ、F及びPは之よりはるかに少く、Oは最も少い。女性でもこの関係は大差はない。次にFとPとの相互関係をみるに、関東頭蓋ではF<PがF>Pに比較してかなりの高率を示すがその関係は畿内頭蓋と略々同様であるも、北陸頭蓋に於てはF>Pが更に減少しF<Pがそれだけ増加している。FとOとの関係に於ては、関東頭蓋と他地方人頭蓋との間に大差がなくF>OはF<Oに比べて極めて大きい。更にPとOとの関係に於ても関東頭蓋と他地方人頭蓋との間には大した相違は認められない。

第8項 脳頭蓋角度計測

(1) 前頭側面角, 前頭傾斜角, グラベローブレグマ角

前頭側面角は男性では関東頭蓋は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい。女性では畿内頭蓋よりも小さく、更に北陸頭蓋よりも少しく小さい。

前頭傾斜角は男女両性共に関東頭蓋は畿内頭蓋よりもかなり小さく、両者の間には確差(♂差=6.00, ♀差=3.08)が認められる。しかして関東頭蓋は北陸頭蓋よりは大きい。森田の成績(♂61.8±0.25, ♀62.8±0.35)は余のそれに比較して少しく大きい。

グラベローブレグマ角は男女両性共に関東頭蓋は畿内頭蓋よりも小さく、両者の間には確差(♂差=5.27, ♀差=3.70)が証明される。関東頭蓋は北陸頭蓋よりも大きい。森田の成績(♂59.9±0.25, ♀61.6±0.34)は、余のそれに比較して少しく大きい。

関東頭蓋に於ける以上の三つの角は男女両性の間に確差が証明されない。

(2) ラムダーイニオン角

関東頭蓋は男性では、畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きく、関東頭蓋と畿内頭蓋との間には明らかな確差(差=5.23)が証明される。女性で

は関東頭蓋は畿内及び北陸頭蓋の何れよりも小さい。森田の成績(♂93.8±0.43, ♀95.1±0.59)は余のそれに比較すると少しく大きい。関東頭蓋に於ては男女間に確差は証明されない。

第9項 脳頭蓋示数(其ノ2)

(1) 横頭蓋穹隆示数

男性では関東頭蓋が最も大きく、畿内頭蓋は之に次ぎ、北陸頭蓋が最も小さく、関東頭蓋と他の二者の間には何れも確差(北陸頭蓋との間差=5.86, 畿内頭蓋との間差=3.63)が証明される。女性では関東頭蓋は畿内頭蓋よりも少しく小さく、北陸頭蓋よりはるかに大きく、後者との間には確差(♂差=4.63)が証明される。関東頭蓋に於ては男女両性の間に明らかな確差が証明され、男性が女性よりも大きい。森田の成績(♂38.5±0.12, ♀37.9±0.15)は余のそれに比較すれば少しく小さい。要するに横頭蓋穹隆示数は関東頭蓋と他の地方人頭蓋との間に男女両性共に明らかな地方差を示し、その差は男性に於て特に顕著である。しかして関東頭蓋の数値が北陸頭蓋のそれよりも大きいという事は前者の頭蓋穹隆の度が後者のそれに比べて弱い事を示すものである。

(2) 横前頭示数, 横前頭頭頂示数, 横頭頂後頭示数

横前頭示数

関東頭蓋では男女両性共に北陸頭蓋よりも小さく、畿内頭蓋よりも大きい。その差はかなり小さい。男女間に確差は証明されない。森田の成績(♂80.5±0.36, ♀81.5±0.39)は男性に於ては余のそれより小さく、女性に於ては余のそれと等しい。之をMartin表(S. 822)に比較すれば、日本人(Baelz)は♂+♀83.7であるのに対し、余の関東日本人は♂+♀81.47であるから、人種表の中に於てChinesen(Haberer, ♂+♀81.3)とAltägypter(Oetteking, ♂+♀82.2)の間に位する。

横前頭頭頂示数

関東頭蓋は男性では、他地方人頭蓋に比較して最も大きく、北陸頭蓋が之に次ぎ、畿内頭蓋が最も小さいが、女性では、北陸頭蓋が最も大きく、関東頭蓋が之に次ぎ、畿内頭蓋が最も小さい。関東頭蓋に於ては男女間に確差が証明されない。森田の成績は女性では余のそれと一致し、男性では余の成績より小さい。之を Martin 表 (S. 820) に比較すれば、日本人 (Baelz) が \bar{x} 67.6, σ 7.1 であるのに対し、関東頭蓋は Altägypter (\bar{x} 67.3, σ 6.5) の下位に位するものである。

横頭頂後頭示数

関東頭蓋は男女両性共に北陸頭蓋よりも小さく、畿内頭蓋よりも大きく、男女間に確差は証明されない。森田の成績は余のそれと大差がない。

(3) 矢状前頭頂示数, 矢状前頭後頭示数, 矢状頭頂後頭示数

矢状前頭頂示数

男性では関東頭蓋は畿内頭蓋より小さく、北陸頭蓋より僅かに大きい、女性では畿内及び北陸頭蓋の何れよりも小さく、男女間に確差は認められない。森田の成績は余のそれと大差がない。要するにこの示数は見掛上に於ても地方的差異は極めて少ない。

矢状前頭後頭示数

男性では関東頭蓋は北陸頭蓋よりも小さく、畿内頭蓋と等しいが、女性では畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きく、男女間に確差は認められない。この示数は男女両性とも関東頭蓋は畿内頭蓋と略々等しいが、北陸頭蓋とは異つている。

矢状頭頂後頭示数

男女両性共に関東頭蓋が北陸及び畿内頭蓋の何れよりも大きく、男女間に確差は認められない。森田の成績は余のそれと大差がない。

(4) 前頭矢状弧示数, 頭頂矢状弧示数, 後頭矢状弧示数

前頭矢状弧示数

関東頭蓋では男女両性共に他地方人頭蓋とほとんど差がなく、男女間にも確差は証明されない。

頭頂矢状弧示数

関東頭蓋に於ては男性では北陸頭蓋よりも大きく、畿内頭蓋に等しいが、女性では北陸頭蓋よりも小さく、畿内頭蓋に略々等しく、男女間に確差は認められない。森田の成績は余のそれと略々等しい。

後頭矢状弧示数

関東頭蓋は男性では、北陸頭蓋よりも小さく、畿

内頭蓋に等しいが、女性では同様畿内頭蓋と等しく、北陸頭蓋よりも大きい。男女間に確差は認められない。

要するに以上の三示数の中、前頭矢状弧示数は各地方人頭蓋の間に殆んど差は認められないが、頭頂矢状弧示数及び後頭矢状弧示数は何れも関東及び畿内頭蓋と北陸頭蓋との間に僅かに差が認められる。

(5) 水平周高示数

水平周高示数は男女両性共に、関東頭蓋は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きく、殊に男性に於ては北陸頭蓋との間に確差 (差 = 5.05) が認められる。男女間には確差は認められない。森田の成績は余のそれと殆んど一致する。

(6) 頭蓋幅両耳幅示数

男女両性共に関東頭蓋は畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きく、男性に於ては畿内及び北陸頭蓋との間、(北陸頭蓋との間差 = 6.34, 畿内頭蓋との間差 = 3.60), 女性に於ては、北陸頭蓋との間 (差 = 6.21) に何れも確差が認められる。森田の成績 (\bar{x} 89.0 ± 0.24, σ 87.3 ± 0.30) は余のそれと殆んど一致する。関東頭蓋は男女両性の間に明らかなる確差を示し、男性が女性より大きい。即ち関東頭蓋は頭蓋最大幅に対し、他の畿内頭蓋、殊に北陸頭蓋よりも比較的広い頭蓋基底を有するものである。

(7) 大後頭孔示数

男女両性共に関東頭蓋は畿内及び北陸頭蓋の何れよりも小さいが、その差は極めて僅かであり男女間に確差は認められない。森田の成績は女性では余のそれと一致するが、男性 (85.2 ± 0.45) では余の成績よりも遙かに大きい。

(8) 矢状前頭示数, 矢状頭頂示数, 矢状後頭示数

矢状前頭示数

関東頭蓋を含む三地方人頭蓋に於て、男女両性共に殆んど差異が認められない。男女間の確差も証明されない。森田の成績も余のそれと大差がない。之を Martin 表 (S. 872) に比較すれば、日本人のこの示数が他人種に比較して小さいがこれはその前頭骨の膨隆が強いことを示すものである。

矢状頭頂示数

関東及び畿内頭蓋共に男性では北陸頭蓋よりも小さく、女性では北陸頭蓋よりも大きい。しかして関東頭蓋と畿内頭蓋とは男女両性共に同一の数値を示している。男女間に確差は証明されない。

矢状後頭示数

男性では関東頭蓋は畿内頭蓋と略々等しく、北陸頭蓋より大きい、女性では三者の間に殆んど差異が認められない。男女間の確差は証明されない。森田の成績は余の成績と殆んど一致する。

要するに関東頭蓋は北陸頭蓋に比較して、後頭骨の矢状彎曲が少いことを示すものである。

(9) 後頭幅高示数

関東頭蓋は男女両性共に畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きく、男女間に確差は認められない。森田の成績(♂ 92.7 ± 0.49 , ♀ 93.3 ± 0.58)は余のそれよりも大きい。要するにこの示数が大きいということは、後頭幅に対し後頭弦が大きいこと、換言すれば、後頭骨の矢状彎曲が小さいことを意味するものである。之を Martin 表(S. 847)に比較すれば、関東日本人は Altägypter (91.1) の上位に位する。

第2節 顔面頭蓋計測

第1項 顔面長径

(1) 顔 長

関東頭蓋の顔長は、男性では畿内及び北陸頭蓋よりも少しく大きく、女性では北陸及び畿内頭蓋よりも小さく、男女間に確差が認められる。森田の成績(♂ 97.6 ± 0.46 , ♀ 94.4 ± 0.64)は余のそれと比較して男性に於いて小さく女性に於いては大きい。要するに之等三地方人頭蓋の顔長には大差は認められない。之を Martin 表(S. 894)に比較すれば、関東頭蓋は♂ 100.39 であつて、Indianer ♂ 100.0 の上位に位するものである。尚余の計測は、男女両性に於いて齒槽突起の萎縮したものを除外したことをここに追記する。

(2) 下顔長

男女両性共に関東頭蓋に於いて最も大きく、畿内頭蓋に於いて最も小さく、男女間に確差が認められる。森田の成績(♂ 104.6 ± 0.51 , ♀ 99.6 ± 0.61)は男女共に余の成績より小さい。

第2項 顔面幅径

(1) 上顔幅、両眼幅

上顔幅は、男性では関東頭蓋が最も大きく北陸頭蓋がこれに次ぎ、畿内頭蓋が最も小さいが、女性では関東頭蓋が最も大きく畿内頭蓋が之に次ぎ、北陸頭蓋が最も小さく、男女間に確差が認められる。森田の成績は男性(103.8 ± 0.34)では余の成績よりも小さく、女性では余のそれと一致する。

両眼幅は、男女両性共に関東頭蓋が少しく大きい、他地方人頭蓋との差異はかなり小さく、男女間

に確差が認められる。森田の成績は、男性(97.2 ± 0.32)では余のそれよりも小さいが女性では余のそれと一致する。

(2) 頬骨弓幅

男性では関東頭蓋が最も大きく、畿内頭蓋之に次ぎ北陸頭蓋が最も小さい。女性では畿内頭蓋が最も大きく、関東頭蓋之に次ぎ北陸頭蓋が最も小さい。しかしながら之等各地方人頭蓋の差異はかなり小さい。関東頭蓋に於いては男女間に確差が認められ男性が女性よりも著しく大きい。森田の成績(♂ 132.9 ± 0.48 , ♀ 124.9 ± 0.62)は男女両性共に余の成績よりも小さい。之を Martin 表(S. 895)に比較すれば、関東頭蓋は Australier (Basedow, ♂ 135.0, ♀ 121.7) と Schweizer (Pittard, ♂ 136.4, ♀ 127.7) の間に位する。

(3) 中顔幅

男性では北陸及び畿内頭蓋に比較して小さく、女性では畿内頭蓋より少しく小さいが、北陸頭蓋よりも大きい。男女間に確差が証明される。森田の成績(♂ 98.6 ± 0.43 , ♀ 93.5 ± 0.49)は余のそれと比較して何れも小さい。之を Martin 表(S. 896)に比較すれば Guanchen (♂ 98.6, ♀ 94.2) と Torguten (♂ 99.4, ♀ —) の間に位する。

第3項 顔面高径

(1) 顔 高

関東頭蓋に於ては男女両性共に最も大きく、北陸及び畿内頭蓋は之よりも小さい。森田の成績(♂ 123.8 ± 0.57 , ♀ 115.0 ± 0.62)は余のそれと比較して何れも小さい。之を Martin 表(S. 895)に比較すると Indianer (Rivet, ♂ 123.0, ♀ 108.5) と Eskimo (Hrdlicka, ♂ 126, ♀ 120) の中間に位し、人種表の上位を占めている。即ち関東頭蓋の顔高は他人種頭蓋に比較してかなり高い部類に属するものである。

(2) 上顔高

男女両性共に北陸頭蓋よりも大きく、畿内頭蓋と殆んど一致する。しかして男性に於ける関東頭蓋と北陸頭蓋との間には確差(差 = 3.10)が認められる。森田の成績(♂ 70.7 ± 0.35 , ♀ 67.1 ± 0.44)は余のそれと比較して何れも小さい。関東頭蓋に於ては、男女間に確差が認められ、男性が女性よりも大きい。之を Martin 表(S. 895)に比較すれば、関東日本人は足立の日本人と殆んど一致し、各人種中で上位に位する。

第4項 眼窩間部計測

(1) 後眼窩間幅

男女両性共に、関東頭蓋に於いて最も大きく、北陸頭蓋が之に次ぎ、畿内頭蓋は最も小さい。尚関東頭蓋に於いては男女間に確差が認められない。之を Martin 表 (S. 967) に比較するに、関東頭蓋は Agypter (23.9) と Schweizer (24.9) の間に位し、人種表の上位を占める。

(2) 前眼窩間幅

男女両性共に関東頭蓋に於いて最も大きく、畿内頭蓋が之に次ぎ、北陸頭蓋が最も小さい。しかして関東頭蓋と北陸頭蓋との間には男女両性共に確差 (合差 = 5.62, 女差 = 5.11) が証明される。森田の成績 (合 17.8±0.17, 女 17.4±0.20) は余の成績に比較してかなり小さい。関東頭蓋に於いては男女間に確差が認められない。尚関東頭蓋の成績は九州頭蓋 (大野) の合 19.0, 女 18.5 に比較しても少しく大きい。之を Martin 表 (S. 967) に比較するに関東日本人は Battak (19.3) と Birmanen (19.7) の間に位する。

第5項 眼窠計測

(1) 眼窠幅 (mf.—ek.)

男女両性共に北陸頭蓋に於いて最も大きく、畿内頭蓋が之に次ぎ、関東頭蓋は最も小さい。しかして、男性に於いては関東頭蓋と北陸頭蓋との間に確差 (差 = 3.75) が証明される。女性に於いては関東頭蓋は北陸及び畿内頭蓋の何れとも有意差 (北陸頭蓋との間差 = 4.22, 畿内頭蓋との間差 = 3.41) を示している。森田の成績は余のそれと大差がない。関東頭蓋に於いては、男女間に確差が証明され男性が女性よりも大きく、左右間には差異が認められない。之を Martin 表 (S. 960) に比較すれば、関東頭蓋は Buriaten, (合 42.0, 女 —) と Osttschen (合 42.5, 女 39.9) の間に位し人種表の略々中位を占める。

(2) 眼窠幅 (la.—ek.)

男女両性共に関東頭蓋は北陸頭蓋よりも大きく、男性に於いて確差 (差 = 3.08) が認められる。男女間に確差が認められる、男女間に確差が認められ、男性が女性よりも大きい。この関東頭蓋の成績は、九州日本人 (大野) の合 38.1, 女 37.1 よりも大きく。又京都日本人 (佐竹) の合 38.6, 女 37.0 よりも同様に大きい。尚関東頭蓋の左右間には殆んど差異が認められない。之を Martin 表 (S. 960) に比較すれば、関東頭蓋は足立の日本人 (合 38.8, 女 —) よりも大きく、Tiroler (合 39.0, 女 37.0) と Bayern

(合 39.5, 女 38.4) の間に位し、人種表に於いては下位に列するものである。

(3) 眼窩高

男女両性共に各地方人頭蓋に於いて殆んど差異がなく、又左右差及び性別は共に認められない。森田の成績も殆んど余のそれと一致する。之を Martin の表 (S. 959) に比較すれば、関東頭蓋は足立の日本人 (合 34.3, 女 —) よりも僅かに大きく、之と Paltacalo-Indianer (合 34.6, 女 34.7) の間に位し、人種表の上位を占める。換言すれば、眼窩高は他人種に比較すればかなり高い部類に属する。

第6項 鼻部計測

(1) 鼻幅

関東頭蓋は男性では畿内頭蓋よりも小さく北陸頭蓋よりも大きい、女性では、畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きい。しかして女性に於いては関東頭蓋と北陸頭蓋との間に確差 (差 = 3.16) が証明される。森田の成績 (合 25.0±0.15, 女 24.5±0.22) は男女両性共に余のそれよりも小さい。尚関東頭蓋に於いては男女間に確差は認められない。要するに、関東頭蓋と北陸頭蓋との間には、女性に於いて明らかに地方差が証明され前者の方が鼻幅が大きい。之を Martin 表 (S. 938) に比較すれば、関東頭蓋は Neu-Irländer (合 25.6, 女 24.1) と Papua (合 26.0, 女 26.0) との間に位し、人種表の中位を占める。

(2) 鼻高

関東頭蓋は男性では、畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい、女性では畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きく、男女間に確差が認められ、男性が女性よりも大きい。森田の成績 (合 52.0±0.26, 女 49.0±0.29) は殆んど余の成績と一致する。之を Martin 表 (S. 937) に比較すれば、関東頭蓋は Badener (合 52.0, 女 47.9) と Schotten (合 53.5, 女 49.4) との間に位し、人種表の上位を占める。

(3) 梨状口高

関東頭蓋は男女両性共に畿内頭蓋よりも少しく小さく、北陸頭蓋よりも僅かに大きく、男女間には確差が証明され、男性が女性よりも大きい。森田の成績は余のそれと略々一致する。要するに梨状口高は各地方人頭蓋に於いて大した差異が認められない。

(4) 鼻骨最小幅

関東頭蓋は男性では北陸頭蓋よりも小さく、畿内頭蓋よりも大きい、女性では北陸及び畿内頭蓋の何れよりも大きく、男女間に確差が証明されない。森田の成績 (合 7.0±0.16, 女 7.1±0.19) は余のそれ

よりもかなり小さい。しかしながら全体としてみる
とき、各地方人頭蓋の間には大差は認められない。
尚鼻骨最小幅の0又は1のものは余の場合に於いて
は存在しなかつたことを追記しておく。

(5) 鼻骨最大幅

関東頭蓋は男性では北陸頭蓋よりも僅かに小さく
畿内頭蓋と一致するが、女性では他の両者の何れよ
りも大きく、男女間に確差が証明されない。森田の
成績(合 17.9 ± 0.14 , 女 17.5 ± 0.19)は男性では余の
それと一致するが、女性では余のそれよりも少しく
小さい。

第7項 口蓋計測

(1) 上顎歯槽長

関東頭蓋は男女両性共に、北陸及び畿内頭蓋の何
れよりも小さく、男女間には確差が証明され、男性
の方が女性よりも大きい。森田の成績は余のそれと
殆んど一致する。しかし北陸頭蓋と畿内頭蓋との
成績は一致するが、この両者と関東頭蓋との間に、
多少の差異が存在することが注目される。

(2) 上顎歯槽幅

関東頭蓋は男性では北陸及び畿内頭蓋の何れよ
りも大きく、女性では畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭
蓋よりも大きい。尚男女間には確差が認められ男性が女性よりも大きい。森
田の成績(合 65.8 ± 0.33 , 女 61.7 ± 0.38)は余のそれ
と殆んど一致する。

(3) 口蓋長 (S. B. L.)

関東頭蓋は男女両性共に、三地方人頭蓋の中で最
も小さく、畿内頭蓋が最も大きい。しかし、男性
に於いては関東頭蓋と畿内頭蓋との間に明らかな確
差(差 = 3.60)が証明される。尚森田の成績(合
 44.0 ± 0.27 , 女 43.7 ± 0.38)は、男性では余のそれと
一致し、女性では少しく大きい。尚関東頭蓋に於い
ては男女間に確差が証明され、男性が女性よりも大
きい。

(4) 口蓋幅

関東頭蓋は、男女両性共に畿内頭蓋よりも小さく、
北陸頭蓋よりも大きく、男女間に確差が認められ男
性が女性よりも大きい。しかし男性では、関東頭
蓋と北陸頭蓋との間に明らかな確差(差 = 3.05)が
証明される。即ち男性に限る限り、口蓋幅は関東
頭蓋と北陸頭蓋との間に明らかなる地方差が存在す
るものである。森田の成績は余のそれと殆んど一致
する。

第8項 下顎骨計測

(1) 下顎関節突起間幅

関東下顎は男女両性を通じて最も大きく、男性で
は畿内下顎、女性では北陸下顎が最も小さい。しか
して男性に於ける関東下顎と北陸下顎との間(差 =
2.88)及び関東下顎と畿内下顎との間(差 = 2.86)に
は、有意差に近い差異が認められる。従つて関東下
顎のこの突起間幅は、他地方人下顎に比較して著し
く大きいことが確認される。尚関東下顎の男女両
性の間には、明らかな確差が存在し、男性の方が著
しく大きい。森田の成績(合 122.0 ± 0.54 , 女 115.7
 ± 0.67)は余のそれに比較して少しく小さい。之
を Martin 表 (S. 971) に比較すれば関東下顎は
Australier (122) の上位に位し、人種表の中央よ
り少しく上位を占める。

(2) 筋突起間幅

関東下顎は男女両性共に最も大きく、畿内下顎が
之に次ぎ、北陸下顎は最も小さい。しかし男女両
性に於いて関東下顎と北陸下顎との間には何れも明
らかなる確差(合 差 = 4.69, 女 差 = 6.89)が証明さ
れる。従つて、筋突起間幅に於いては関東下顎と北
陸下顎との間に明らかなる地方差が存在する。尚関
東下顎に於いては、男女間に明らかなる確差が存在
し、男性が著しく大きい。

(3) 下顎角幅

関東下顎は男女両性共に他地方人下顎よりも小
さいが、その差異は僅かである。尚男女間には明ら
かなる確差が証明され、男性の方が著しく大きい。森
田の成績(合 96.9 ± 0.54 , 女 90.3 ± 0.49)は余のそれ
と比較して男性では小さく、女性では大きい。之
を Martin 表 (S. 971.) に比較すれば関東下顎は
Chinesen (101) と Melanesier (96) の間に位す
る。

(4) 頤高

男性に於いては三地方人下顎の間に差異なく、女
性では北陸下顎が関東及び畿内下顎の何れよりも小
さい。森田の成績も殆んど余のそれと一致する。関
東下顎に於いては男女間に確差が存在し、男性が女
性よりも大きい。

(5) 頤幅

関東下顎が男女両性共に最も大きく、男性では畿
内下顎が、女性では北陸下顎が最も小さい。関東下
顎には男女間の確差は証明されない。何れにしても
頤幅に於いては三地方人下顎の間に大差はない。

(6) 下顎枝高

関東下顎(右側)は男女両性共に最も大きく、男

性では畿内下顎が、女性では北陸下顎が最も小さい。しかし男性に於いては関東下顎と畿内下顎との間(差=3.40)女性に於いては関東下顎と北陸下顎との間(差=3.18)に何れも明らかな確差が証明される。尚森田の成績(♂ 62.6±0.45, ♀ 57.6±0.53)は余のそれに比較して男女両性共に小さい。関東下顎に於いては男女間に確差が存在し、男性が女性よりも大きい。

左側の下顎枝高はその平均値に於いて、右側のそれと殆んど一致する。尚この場合男女両性に於いて、関東下顎と畿内下顎との間には明らかな確差(♂差=3.40, ♀差=4.45)が認められる。尚関東下顎と北陸下顎との間にも男女両性に於いて有意差に近い差異(♂差=2.89, ♀差=2.85)が存在する。要するに左右両側を通じて関東下顎の下顎枝高は畿内及び北陸下顎のそれと明らかなる地方差を示している。

(7) 筋突起高

関東下顎(右側)は男性では畿内及び北陸下顎の何れよりも小さいが、女性では畿内下顎よりも小さく、北陸下顎よりも大きい。尚関東下顎に於いては男女間に確差が認められ、男性が女性よりも著しく大きい。左側の筋突起高はその平均値に於いて男女両性共に右側のそれよりも少しく小さい。

(8) 下顎截痕高

関東下顎(右側)は男性では、畿内下顎より小さく、北陸下顎より大きい。女性では北陸下顎より小さく、畿内下顎より大きい。尚之等の間には大差はない。森田の成績(♂ 14.7±0.17, ♀ 13.1±0.20)は余のそれと殆んど一致する。左側截痕高は右側のそれと大差がない。

(9) 下顎截痕幅

関東下顎(右側)は男女両性を通じて最も小

く、男性では北陸下顎が、女性では畿内下顎が最も大きい。しかし之等の間に於ける差異は小さい。男女間にも確差が証明されない。森田の成績(♂ 35.4±0.29, ♀ 34.0±0.34)は余のそれよりも少しく大きいが大差はない。

(10) 下顎枝幅

右側は男、女両性共に北陸下顎が最も大きく、畿内下顎が之に次ぎ、関東下顎が最も小さい。しかし之等の間に於ける差異は僅かであつて、殊に女性に於いては三者殆んど一致する。森田の成績は余のそれと大差がない。左側の平均値も右側のそれと殆んど一致する。

第9項 顔面頭蓋角度計測

(1) 全側面角(第14表)

関東頭蓋は男性では畿内及び北陸頭蓋よりも小さく、女性ではそれらよりも大きい。しかしながらその差は極めて少い。尚関東頭蓋は男女間に確差を示さない。森田の成績(♂ 81.5±0.29, ♀ 83.6±0.36)は男性では余の成績よりも大きく、女性では大差がない。関東頭蓋の側面角を Lüthy の表(Martin S. 912)に対比すれば、Singhalesen (82.1°)と Chinesen (83.0°)の間に位し、人種表の略々中央に列するものと思われる。之に反して Martin 表(S. 913)に比較すると略々 Marianen (82.8°)に相当し世界人種の中で小さい部類に属する。

関東頭蓋の平均値は、男女両性共に Mesognath に属するものであるが、之を全側面角によりて分類すれば第14表の如くである。即ち関東頭蓋は Mesognath (58.1%) 最も多く、Orthognath (31.1%) 之に次ぎ、Prognath (10.8%) は最も少い。この関係は北陸及び畿内頭蓋に於いては同様であるが、中国頭蓋に於いては之に反して Orthoshath (50.6%) 最も多く、Mesognath (43.0%) 之に次ぎ、Progn-

第14表 側面角分類表

	性	n	Hyperpr-ognath	Prognath	Mesognath	Orthognath	Hyperort-hognath
関東日本人	♂	58		10.3	60.3	29.3	
	♀	16		12.5	50.0	37.5	
	♂+♀	74		10.8	58.1	31.1	
北陸日本人	♂+♀	50		10.0	66.0	24.0	
畿内日本人	♂+♀	49		10.2	57.1	32.7	
中国日本人	♂+♀	47		6.3	43.0	50.6	
北海道アイノ	♂+♀	111		17.1	62.3	20.7	
支那人(Haberer)	♂+♀	36		39.0	42.2	13.9	

第15表 鼻 側 面 角

	性	n	Hyperpr- ognath	Prognath	Mesognath	Orthognath	Hyperort- hognath
関 東 日 本 人	♂	71		4.2	23.9	70.4	14
	♀	23		0	39.1	60.9	0
	♂+♀	94		3.2	27.7	68.1	1.1
北 陸 日 本 人	♂+♀	50		2.0	44.0	54.0	
畿 内 日 本 人	♂+♀	50		0	8.0	84.0	8.0
北 海 道 アイノ	♂+♀	111		3.6	46.8	49.5	

ath (6.3%) は最も少い。北海道アイノは大体に於いて関東、北陸及び畿内頭蓋に一致する。これに対して支那人頭蓋 (Haberer) は Masognath (47.2%) が第1位を占めるが、Prognath (39.0%) が第2位を占め Orthognath (13.9%) が最も少くなっている。

(2) 鼻側面角 (第15表)

関東頭蓋は男女両性を通じて畿内頭蓋よりは小さく北陸頭蓋よりは大きい。しかして、男性に於いては、関東頭蓋と畿内頭蓋との間に明らかな確差 (差 = 3.23) が証明される。従つて、男性に於いては関東頭蓋と畿内頭蓋との間には、明らかなる地方差が存在する。森田の成績 (♂ 88.5 ± 0.36, ♀ 87.8 ± 0.38) は、余の成績よりも可成り大きい。之を Lüthy の表 (Martin S. 912) に比較すると、関東頭蓋は、Singhalesen (85.5°) と Altägypter (86.4°) との間に位し、世界人種表の中央に列するが Martin 表 (S. 913) に於いては Marianen (85.7°) と Nordchinesen (86.0°) との間に位し、世界人種の中で小さい部類に属する。

関東頭蓋の平均値は男女両性共に Orthognath に属するが之を鼻側面角により分類すれば Orthognath (68.1%) 最も多く、Mesognath (21.7%) 之に次ぎ、Prognath (3.2%) は甚だしく少い。北陸頭蓋はその関係が関東頭蓋に近く、Orthognath が第1位、Mesognath が第2位を占めるが、両者の差は、関東頭蓋に於けるよりも少い。しかるに畿内頭蓋に於いては Orthognath (84.0%) が圧倒的多数を占め、Mesognath 及び Hyper-Orthognath は何れも 8% を示すが Prognath は存在しない。

北海道アイノは Orthognath (49.5%) が第1位で Mesognath (46.8%) が第2位を示すが、両者の差は極めて少い。尚関東頭蓋に於いては男女両性共に Orthognath が最も多く Mesognath が之に次ぎ、その関係は男女間に於いて同様である。

(3) 鼻背側面角

男性では北陸頭蓋が最も大きく、畿内頭蓋が之に次ぎ、関東頭蓋が最も小さい。女性では北陸頭蓋が最も大きく畿内頭蓋が最も小さい。しかして男女両性共に北陸頭蓋と関東頭蓋との間には何れも明らかなる確差 (♂ 差 = 8.49, ♀ 差 = 6.11) が証明される。即ち、鼻背側面角に関し関東頭蓋と北陸頭蓋との間には明らかなる地方差が証明される。尚関東頭蓋に於いては、男女間に確差は認められない。之を Lüthy u. Reicher の表 (Martin S. 920) に比較すると、関東頭蓋は Australier (61.6°) と Kamerun-Neger (64.1°) の間に位し、人種表の中位を占める。

(4) 下顎枝角

右側。男性では関東下顎が最も大きく、北陸下顎が之に次ぎ、畿内下顎は最も小さいが、女性では北陸下顎が最も大きく、関東下顎が之に次ぎ、畿内下顎は最も小さい。しかして男性に於ける関東下顎と畿内下顎との間には、明らかなる確差 (差 = 4.16) が認められる。換言すれば、下顎枝角に於いては関東下顎と畿内下顎との間には、明らかなる地方差が認められる。尚関東下顎に於いては男女間に確差は認められない。森田の成績 (♂ 127.7 ± 0.72, ♀ 131.3 ± 0.86) は男性では余の成績よりも小さく、女性では余のそれと一致する。左側に於ける成績は、右側に於けるそれと略々一致する。尚左側に於いても男性では関東下顎と北陸下顎との間には明らかなる確差 (差 = 4.32) が証明される。之を Martin 表 (S. 984) に比較すると関東日本人は Europäer (München) の 128° よりも大きく、人種表の最上位に位する。即ち、関東下顎の下顎枝角は、諸人種に比較して最大の値を示すものである。

第10項 顔面頭蓋示数

(A) 顔面示数

(1) コルマン顔面示数 (第16表)

第16表 コルマン顔面示数分類表

	性	n	Hyperuryprosop	Europrosop	Mesoprosop	Leptoprosop	Hyperleptoprosop
関東日本人	♂	43		7.0	34.9	30.2	27.9
	♀	8	12.5		12.5	37.5	37.5
	♂+♀	51	2.0	5.9	31.4	31.4	29.4
北陸日本人	♂+♀	49	2.0	4.1	44.9	26.5	22.5
畿内日本人	♂+♀	50		10.0	20.0	52.0	18.0
中国日本人	♂+♀	64		6.3	28.1	46.9	18.8
九州日本人	♂+♀	103	4.9	26.2	31.1	22.3	15.5
北海道アイノ	♂+♀	69	10.0	33.3	33.3	13.0	10.1
支那人(Haberer)	♂+♀	33		3.0	27.3	39.4	30.3

男性では関東頭蓋は畿内頭蓋と一致するが北陸頭蓋よりも少しく大きく、女性では他の二地方人頭蓋よりも大きい。しかし全体を通覧するとき、その差は極めて小さい。男女間には確差は認められない。コルマン顔面示数によつて頭蓋を分類すると第16表の通りである。即ち、関東頭蓋をその平均値から見るときには、他地方人頭蓋と同様に Leptaprosop に属するが之を分類するときには、男女合計に於いて、Mesoprosop 及び Leptoprosop 共に 31.4% であり Hyperleptoprosop は 29.4% を示している。しかし、森田の場合に於いては Mesoprosop 28.3%, Leptoprosop は 32.3%, Hyperleptoprosop 33.6% を示し、多少の出入りはあるが大体に於いて余の成績と一致する。しかるに北陸頭蓋に於いては Mesoprosop が最も多く、Leptoprosop 及び Hyperleptoprosop は 20% 代を示すが、畿内及び中国頭蓋に於いては Leptoprosop が殆んど半数前後を示し Mesoprosop 及び Hyperleptoprosop が 18%~28% の間に分布されている。以上の関東、北陸畿内及び中国頭蓋を通じて Euryprosop は 10% 以下であり、大多数のものが Mesoprosop, Leptoprosop, Hyperleptoprosop に分布されていることは、共通の現象である。この関係は支那人(Haberer) と殆んど一致する。しかるに、九州頭蓋に於いては、Euryprosop 26.2%, Mesoprosop 31.1%, Leptoprosop 22.3% なる数字を示し、その関係は北海道アイノに類似し関東頭蓋等からは著しく相違する。

之を Mart.n 表(S. 900)に比較すると、関東頭蓋は Leptoprosop の項のうちで Ama-zulu (♂ 91.1, ♀ 91.1) と Schotten (♂ 92.3, ♀ 87.8) の間に位し、同表に掲げる Toldt の日本人 (♂ 93.4, ♀ 94.0) よりは可成り小さい。

(2) ウイルヒョウ顔面示数

関東頭蓋は男性では北陸頭蓋よりも大きい、女性では後者よりも小さい。尚森田の成績 (♂ 125.4 ± 0.68, ♀ 123.3 ± 0.77) は男性に於いては余のそれと一致し、女性に於いては余の成績よりも大きい。之を Holl の分類法により分類すれば、Hyperchamaeprosop 2.0%, Chamaeprosop 27.5%, Orthoprosop 45.1%, Leptoprosop 25.5% にして、Orthoprosop が最上位を占め、次に Chamaeprosop であり、Hyperchamaeprosop が最下位を占める。Hyperleptoprosop は 1 例もない。

(3) コルマン上顔面示数(第17表)

男女両性を通じて畿内頭蓋が最も大きく、北陸頭蓋が最も小さい。畿内頭蓋と関東頭蓋との差は、極めて小さいが後者と北陸頭蓋との間には可成りの差が認められる。森田の成績 (♂ 53.3 ± 0.28, ♀ 53.8 ± 0.36) は大体に於いて余のそれと一致する。男女間に確差は認められない。之等の三地方人頭蓋は、その平均値は何れも Mesen に属するものであるが之を分類すれば、第17表の通りである。しかして、之等諸地方人及び隣接人種の成績を通覧するに

(1) 総てを通じて Mesen が過半数以上又は半数に近き最高の % を示すこと、(2) 北陸日本人及び北海道アイノに於いては Euryen が第2の高率を示しているのに対し、(3) 他の関東日本人、畿内日本人、中国日本人、九州日本人、朝鮮人及び支那人に於いては、Lepten が第2位の高率を示していることが看取される。尚森田の成績は Mesen, 50.4%, Lepten, 29.8%, Euryen, 15.8% 等の数値を示している。之を Martin 表(S. 902)に比較すると、関東頭蓋は Ama-zulu (♂ 52.9, ♀ 52.9) と Singhalesen (♂ 53.2, ♀ 53.2) との間に位し、各人種表の中位を占める。

第 17 表 コルマン上顔面示数分類表

	性	n	Hypereu- ryen	Euryen	Mesen	Lepten	Hyperlep- ten
関 東 日 本 人	♂	58	0	10.3	58.6	29.3	1.7
	♀	16	0	6.3	37.5	56.3	0
	♂+♀	74	0	9.5	54.1	35.1	1.4
北 陸 日 本 人	♂+♀	49	2.0	26.5	51.0	18.4	2.0
畿 内 日 本 人	♂+♀	49	0	6.1	53.1	36.7	4.1
中 国 日 本 人	♂+♀	70	0	2.9	61.5	30.0	5.7
九 州 日 本 人	♂+♀	103	0	14.6	57.3	22.3	5.8
北 海 道 アイノ	♂+♀	103	3.9	31.1	58.3	5.8	1.0
朝 鮮 人 (小金井)	♂+♀	15	0	6.7	80.0	13.3	0
支 那 人 (Haberer)	♂+♀	36	0	11.1	41.7	38.9	8.3

第 18 表 ウィルヒョウ上顔面示数分類表

	性	n	Hyperchama- eprosop	Chamaepro- sop	Leptoprosop	Hyperleptop- rosop
関 東 日 本 人	♂	58	5.2	53.4	41.2	0
	♀	16	12.5	68.8	18.8	0
	♂+♀	74	6.8	56.8	36.5	0
北 陸 日 本 人	♂+♀	50	12.0	74.0	14.0	0
畿 内 日 本 人	♂+♀	49	2.0	75.5	22.4	0
中 国 日 本 人	♂+♀	74	5.4	66.2	28.4	0
九 州 日 本 人	♂+♀	103	12.6	67.0	20.4	0
北 海 道 アイノ	♂+♀	110	33.0	63.4	3.6	0
朝 鮮 人 (小金井)	♂+♀	16	0	75.0	25.0	0
支 那 人 (Haberer)	♂+♀	36	8.3	58.3	33.3	0

(4) ウィルヒョウ上顔面示数 (第 18 表)

関東頭蓋に於いては男女両性共にその平均値は、Chamaeprosop に属する。しかして、三つの地方人頭蓋のうち北陸頭蓋が最も小さく、関東及び畿内頭蓋は之よりも可成り大きく、その数値は兩者全く一致している。男女間の確差は認められない。森田の成績 (♂ 71.84±0.39, ♀ 72.0±0.48) は余のそれと大差がない。ウィルヒョウ上顔面示数 (Holl の分類法) により分類すれば第 18 表によつて示す様に何れの頭蓋も Chamaeprosop が過半数を占めている。しかして支那人、朝鮮人、九州、中国、畿内、北陸、及び関東頭蓋は何れも Leptoprosop が第 2 位を示すのに対し、北海道アイノは、Hyperchamaeprosop が第 2 位を占めている。尚関東頭蓋に於いては、Chamaeprosop (56.8%) が第 1 位で、Leptoprosop (36.5%) が第 2 位を示すが、兩者の差異は他地方人頭蓋に比較してかなり少い事が注目される。

(5) 頬骨前頭示数

関東頭蓋は、男女両性共に畿内頭蓋よりも小さい、男女間に確差が存在し女性が男性よりも大きい。森田の成績 (♂ 87.3±0.39, ♀ 89.5±0.56) は、殆んど余のそれと一致する。北陸頭蓋に於いては、之に該当する示数は報告されていない。尚、余の頬骨前頭示数は最大幅を用いた事を付記しておく。

(6) 頬骨下顎示数

関東頭蓋は、男女両性共に畿内頭蓋よりも小さく、又男性では北陸頭蓋よりも大きいが女性ではそれよりも小さい。男女間に確差は認められない。尚森田の成績 (♂ 72.9±0.34, ♀ 72.3±0.32) は余のそれと比較して、男性では殆んど一致し、女性では少しく大きい。之を Martin 表 (S. 908) に比較すれば Ambitle (♂ 70.0, ♀ —) と Aino (♂ 74.2, ♀ 73.7) の間に位し、人種表に於いては著しく小さい部類に属する。

(7) 頬骨中顔幅示数

関東頭蓋に於いて、♂ 72.75±0.31, ♀ 75.75±0.50 の数値を示し、女性の方が大きい。しかるに森田の

第19表 上顎歯槽示数分類表

	性	n	Dolichuranich	Mesuranish	Brackyuranish
関東日本人	♂	53	7.5	11.3	81.1
	♀	16	0	6.3	93.8
	♂+♀	69	5.8	10.1	84.1
北陸日本人	♂+♀		10.4	10.4	79.2
畿内日本人	♂+♀		2.1	10.4	87.4
樺太アイノ	♂+♀		12.6	21.9	65.6

成績(♂ 74.3±0.25, ♀ 74.8±0.31)は男性に於いては余のそれよりも大きく女性では小さい。男女間に確差が証明されない。

上顎歯槽示数(第19表)

関東頭蓋では男女両性共にその平均値は, Brackyuranish に属し, 男性では北陸頭蓋よりも小さく畿内頭蓋よりも大きい, 女性では畿内頭蓋よりも小さく北陸頭蓋よりも大きい。男女間に確差が証明されない。尚森田の成績(♂ 126.0±0.68, ♀ 123.2±1.01)は余のそれに比較してかなり大きい。之を Martin 表(S. 928)に比較すれば, 関東頭蓋は Battak(♂+♀ 121.1)と Maori(♂+♀ 122.6)との間に位し人種表の上位を占めている。

上顎歯槽示数を Turner の方法に従つて分類すれば第19表の通りであつて, 関東頭蓋も他の頭蓋と同様に Brackyuranish (84.1%) が圧倒的多数を示し Mesouranisch (10.1%) が之に次ぎ Dolichuranisch (5.8%) は最も少い。この分類の%は畿内頭蓋のそれに類似するが北陸頭蓋に於いては Mesuranish と Dolichuranisch が何れも 10.4% を占め, 多少の相違を表わしている。

(9) 口蓋示数(第20表)

Spinabasislänge による口蓋示数に於いては関東頭蓋は男女両性共に最も大きく畿内頭蓋が之に次ぎ, 北陸頭蓋は最も小さい。しかして, 関東頭蓋と北陸頭蓋との間には確差(♂差=3.38, ♀差=4.89)が認められる。尚男女間に確差は証明されない。森

田の成績(♂ 91.1±0.78, ♀ 90.4±1.27)は余のそれと比較して男性では僅かに大きく女性では小さい。之を Martin 表(S. 931)に比較すれば Brachystaphylin に属する人種中 Battak(♂+♀ 91.0)に該当し, その項の中位を占める。

口蓋示数を Martin に従い分類すれば, 第20表の通りであつて, 関東頭蓋は Brachystaphylin (75.4%) が圧倒的に多く, Leptostaphylin (14.5%) が第2位, Mesostaphylin (10.1%) が第3位を示している。しかるに, 森田の場合に於いては Brachystaphylin (74.9%) は余の成績と一致するが, 之に反して第2位は Mesostaphylin (15.4%), 第3位は Leptostaphylin (9.7%) となつている。尚畿内頭蓋に於いては Brachystaphylin (61.4%) は過半数を示すが, 北陸頭蓋に於いては Brachystaphylin は 43.7% で過半数に達していない。しかして両者共 Mesostaphylin の%は関東頭蓋のその約3倍に達する。要するに関東頭蓋と他の北陸及び畿内頭蓋とはその%の配分に於いてかなり相違している。

B 眼窩部示数

(10) 前眼窩間示数

関東頭蓋は, 男女両性共に最も大きく, 北陸頭蓋は最も小さい。しかして男女両性共に関東頭蓋と畿内頭蓋との間(♂差=3.39, ♀差=6.43)及び関東頭蓋と北陸頭蓋との間(♂差=5.06, ♀差=6.96)には, 確差が存在し, 明らかなる地方差が証明される。この前眼窩間示数について以上の如く, 関東頭

第20表 口蓋示数分類表

	性	n	Leptostaphylin	Mesostaphylin	Brachystaphylin
関東日本人	♂	55	12.7	10.9	76.4
	♀	14	21.4	7.1	71.4
	♂+♀	69	14.5	10.1	75.4
北陸日本人	♂+♀		25.0	31.3	43.7
畿内日本人	♂+♀		11.4	27.3	61.4

第 21 表 眼 窠 示 数 (r + 1)

	性	n	Chamaekonch	Mesokonch	Hypsikonch
関 東 日 本 人	♂	142	8.5	66.9	24.6
	♀	46	2.2	23.9	73.9
	♂+♀	188	6.9	56.4	36.7
北 陸 日 本 人	♂+♀	100	13.0	68.0	19.0
畿 内 日 本 人	♂+♀	-	24.0	60.0	16.0
九 州 日 本 人	♂+♀	-	8.7	64.1	27.2

蓋と他地方人頭蓋との間に明らかな地方差が証明されることは注目すべき所見である。尚関東頭蓋に於いては男女間に略々確差 (差 = 2.97) が認められ、女性の方が男性よりも大きい。森田の成績 (♂ 18.3 ± 0.15, ♀ 18.5 ± 0.19) は、何れも余の成績よりも小さく、畿内頭蓋に略々一致する。之を Martin 表 (S. 967) に比較すれば、関東頭蓋は略々 Battak (20.1) に該当し人種表の中位を占め北陸頭蓋 (♂ + ♀ 17.7) が最小値を示すのとは著しく相違する。

(11) 眼窩示数 (第 21 表)

右側に於いては、男女両性共に関東頭蓋が最も大きく、北陸及び畿内頭蓋は関東頭蓋よりも小さく、しかもその両者の数値は女性に於いて略々一致する。関東頭蓋に於いては男女間に確差が認められ女性の方が男性よりも大きい。即ち女性は男性よりも比較的高い *Orhita* を有するものである。この関係は左側に於いても同様である。尚森田の成績 (♂ 80.4 ± 0.39, ♀ 82.4 ± 0.48) は余の成績と比較してかなり小さく、北陸及び畿内頭蓋に類似の数値を示している。要するに余の関東頭蓋は、北陸及び畿内頭蓋よりもかなり大きい、その関係は女性の右側に於いて特に著明である。即ち、女性の右側では関東頭蓋と畿内頭蓋との間 (差 = 3.54) 及び関東頭蓋と北陸頭蓋との間 (差 = 3.85) には確差が存在し、明らかなる地方差が証明される。尚男性の右側に於いても畿内頭蓋との間に確差 (差 = 3.28) が認められる。この女性の右側に於いて関東頭蓋と畿内及び北陸頭蓋との間に夫々明らかなる地方差が証明されることは注目すべき所見である。尚左右両側共関東頭蓋の眼窩示数の平均値は男性では、*Mesokonch* であるが女性では *Hypsikonch* に属する。之を Martin 表 (S. 960) に比較すれば、関東頭蓋は Battak (♂ 81.9, ♀ —) と、Polen (♂ 82.3, ♀ —) との間に位し人種表の中位を占める。眼窩を眼窩示数によりて分類すれば第 21 表の如く、関東頭蓋は *Mesoko-*

nch (56.4%) が最も多く、*Hypsikonch* (36.7%) が之に次ぎ *Chamaekonch* (6.9%) が最も小さい。森田の成績 (*Mesokonch* 64.6%, *Hypsikonch* 22.1%, *Chamekonch* 13.3%) を余のそれと比較すれば多少のずれを示している。北陸頭蓋に於いては、*Mesokonch* (68.0%) が圧倒的に多く、*Hypsikonch* (19.0%) と *Chamaekonch* (13.0%) が相接近した数値を示しているが、畿内頭蓋に於いては、*Chamaekonch* (24.0%) が *Hypsikonch* (16.0%) よりもかなり大きい。尚九州頭蓋に於いては *Mesokonch* (64.1%) について *Hypsikonch* (27.2%) が相当に多く *Chamaekonch* (8.7%) が著しく少ない。要するに関東、九州及び北陸頭蓋が、*Mesokonch* を中心としてより多く *Hypsikonch* の方に傾いているが、畿内頭蓋は之に反して、*Mesokonch* を中心にしてより多く *Chamaeconch* の方に傾いていることは注目すべき所見であろう。

C 鼻部示数

(12) 鼻示数 (第 22 表)

関東頭蓋は男性では畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい、女性では畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きい。しかして男性に於ける他地方人頭蓋との差異はかなり小さいが、女性に於いては相当に大きい。即ち、関東地方の女性は畿内及び北陸地方の女性に比較して、比較的広い鼻を有することを意味する様に思われる。尚男女間に有意差は認められない。森田の成績 (♂ 48.4 ± 0.35, ♀ 50.2 ± 0.50) は余のそれに比較して女性では特に小さい。之を Martin (S. 939) 表に比較すれば、関東日本人は Baelz の日本人 (♂ 50.0, ♀ —) に略々該当し人種表の中位を占める。

関東頭蓋の平均値は男性では *Mesorrhin* に属するが女性では *Chamaerrhin* に属する。しかして鼻示数によりて分類すれば、第 22 表に示す様に関東頭蓋では *Chamaerrhin* (38.3%) が第 1 位を示

第22表 鼻示数分類表

	性	n	Leptorrhin	Mesorrhin	Chamaerrhin	Hyperchae- rrhin
関東日本人	♂	71	23.9	39.4	33.8	2.8
	♀	23	8.7	21.7	52.2	17.4
	♂+♀	94	20.2	35.1	38.3	6.4
北陸日本人	♂+♀		34.0	30.0	32.0	4.0
畿内日本人	♂+♀		16.0	34.0	44.0	6.0

し、Mesorrhin (35.1%) が第2位を示し Leptorrhin (20.2%) が之に次ぎ、Hyperchamaerrhin (6.4%) は最も少い。しかるに森田の場合に於いては Leptorrhin (35.1%) が最も多く、Mesorrhin (32.6%) が第2位を占め Chamaerrhin (27.8%) が之に次ぎ、余の場合と同様に Hyperchamaerrhin (3.5%) が最も少い。即ち、余の成績と森田のそれとは%の配分の順序がかなり相違している。畿内頭蓋に於いては、余の場合と同様に Chamaerrhin (44.0%) が第1位、Mesorrhin (34.0%) が第2位、Leptorrhin (16.0%) が之に次ぎ Hyperchamaerrhin (6.0%) が最も少い。しかるに北陸頭蓋に於いては Leptorrhin (34.0%)、Chamaerrhin (32.0%)、Mesorrhin (30.0%) の三者が略々同様の%を示し、Hyperchamaerrhin (4.0%) が最も少い。要するに%の配分に於いて余の関東頭蓋と畿内頭蓋とは一致するが、北陸頭蓋は前二者と違つた傾向を示している。森田の成績は、むしろ北陸頭蓋に近い。

(13) 横鼻顔面示数

関東頭蓋は男性では、畿内頭蓋よりも小さく北陸頭蓋よりも大きい。女性では他の両者よりも大きい。男女間に有意差が認められ女性は男性よりも大きい。尚男女両性共に各地方人頭蓋に於ける差はかなり小さい。森田の成績 (♂ 18.2±0.11, ♀ 19.6±0.16) は、余のそれと大差がない。

D 下顎示数

(14) 下顎幅示数

関東下顎は男女両性共に他の畿内及び北陸下顎の何れよりも小さく、又男女間に確差が認められない。しかして男性において関東下顎と北陸下顎との間 (差=3.25) 及び関東下顎と畿内下顎との間 (差=4.03) には何れも、明らかなる確差が証明される。しかしながら下顎幅の計測点が余の場合と北陸及び畿内下顎との場合に於いて相違している様に思われるので、この成績は割引きして考える必要がある

う。唯、森田の成績 (♂ 79.6±0.41, ♀ 78.2±0.44) が余のそれと略々一致することは、注目すべきことであろう。

(15) 下顎枝示数

右側では関東下顎は、男女両性共に北陸及び畿内下顎の何れよりも小さい、しかして男性に於いては、関東下顎と畿内下顎との間 (差=3.88) 及び関東下顎と北陸下顎との間 (差=7.24) には、何れも明らかなる確差が証明される。この成績は枝高の計測点のとり方によりかなりの影響をうけるので、そのまゝには受取り難いが、唯この成績が森田の成績 (♂ 53.1±0.48, ♀ 54.1±0.66) に略々一致することは興味ある所見といわなければならない。更に左側に於いても男性では関東下顎と畿内下顎との間 (差=3.05) 及び関東下顎と北陸下顎との間 (差=3.70) には、何れも確差が証明され、尚女性の右側に於いても関東下顎と北陸下顎との間 (差=2.86) には、有意差に近い数字が認められる。何れにしても左右を通じて、関東下顎と他の北陸及び畿内下顎との間には、上記の数値が与えられるがその信頼性は色々の点から十分に検討する必要がある。

(16) 顎示数 (第23表)

関東頭蓋は男女両性共に北陸頭蓋よりも小さく、男女間に確差が認められない。しかして森田の成績 (♂ 97.0±0.38, ♀ 99.0±0.45) は余の成績と男性に於いては一致し、女性に於いて少しく大きい。

頭蓋を顎示数によつて分類すれば、第23表の通りである。即ち、関東頭蓋は Orthognath (57.1%) が最も多く、Mesognath (36.4%) が之に次ぎ、Prognath (6.5%) は最も少ない。この関係は、森田の成績 (Orthognath 55.5%, Mesognath 31.7%, Prognath 12.8%) と略々一致する。しかるに、北陸頭蓋に於いては Mesognath (54.0%) が最も多く Orthognath (34.0%) が之に次ぎ、Pragnath (12.0) が最も少い。尚要約すれば、関東頭蓋に於いては Orthognath が最も多いが、北陸頭蓋では

第23表 顎示数分類表

	性	n	Orthognath	Mesognath	Prognath
関東日本人	♂	61	55.7	36.1	8.2
	♀	16	62.5	37.5	0
	♂+♀	77	57.1	36.4	6.5

Mesognath が最も多く % の配分の状態が両者に於いて著しく相違している。

第4章 総括

(1) 関東日本人の頭蓋容積は大であつて、男女両性共にその平均値に於いては Aristenkephal に属し、その容積は ♂ 1491.06, ♀ 1302.27 である。しかして男性に於いては Euenkephal 39.4%, Aristenkephal 59.2%, 女性に於いては Euenkephal 50.0%, Aristenkephal 40.9% を示している。之を Martin 表 (S. 746) に比較すれば、著者の関東頭蓋はアジア人種中、上位の容積を示し、Torguten (♂ 1489, ♀ 1496) と Buriaten (♂ 1496, ♀ 1496) の中間に位する。

(2) 関東日本人の全頭蓋重量及び下顎重量は頭蓋 ♂ 713.59, ♀ 577.68, 下顎 ♂ 97.67, ♀ 76.00 であり、前者は世界諸人種の中位に位するが、後者は上位に近く位する。関東頭蓋は男性に於いては畿内頭蓋よりも軽いが、北陸頭蓋よりも重く、女性に於いては両者の何れよりも軽い。関東下顎は男性に於いては、北陸及び畿内下顎の何れよりも重い、女性に於いては畿内下顎よりも軽く、北陸下顎よりも重い。即ち関東下顎は男性に於いて他地方人下顎の何れよりも頑強である。

(3) 関東頭蓋の最大長は ♂ 181.68, ♀ 174.14, 差 5.54 であり、男性では北陸及び九州頭蓋について第3位を示し、女性では九州頭蓋について第2位を占め、日本人中に於いては長い部類に属し各人種中の中位に位する。

(4) 関東頭蓋の最大幅は ♂ 142.04, ♀ 135.95 であり、男性では地方人頭蓋中最も大きい、女性では九州頭蓋と略々同様な値を示し、世界人種中に於いて中位に位する。

(5) 関東頭蓋基底長 (♂ 103.14, ♀ 95.84) は九州頭蓋について第2位を示し、畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きく、Martin 表によれば世界人種中長い部類に属する。

(6) 関東頭蓋に於いてはその他の長径は北陸頭

蓋よりも少しく短く、その他の幅径は北陸頭蓋よりも一般に大である。要するに関東頭蓋は北陸頭蓋に比較して前後に少し短い、横には広くなつてゐる。

(7) 以上の各項目に於ける男女の性別は殆んどすべて明らかなる確差を示し、男性は女性よりも大である。

(8) 関東頭蓋のバジオンプレグマ高は ♂ 139.13, ♀ 131.05 であつて、九州、中国及び畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりは遙かに大きい。尚男性に於いては北陸頭蓋との間には確差が証明される。関東頭蓋に於いては男女両性の間に明らかな確差が存在し、男性が女性より大きい。関東頭蓋のバジオンプレグマ高は北海道アイノ (小金井) よりも少しく小さく、朝鮮人 (小金井及び長谷部) よりもかなり小さい。しかして世界人種中日本人頭蓋は一般に著しく高いバジオンプレグマ高を有するが、関東頭蓋は各人種表の上位を占めている。

(9) 関東頭蓋の直高 (♂ 140.37, ♀ 132.71), 耳プレグマ高 (♂ 116.70, ♀ 109.95), 直耳高 (♂ 118.13, ♀ 111.95) は大体に於いて男女両性共に畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい。しかして直高は、男性に於いては北陸頭蓋との間に、又耳プレグマ高は女性に於いて北陸頭蓋との間に何れも確差を示しその差が大きい。以上の三高径は男女両性の間に明らかなる確差を示し男性の方が女性よりも大きい。

(10) 関東頭蓋の穹頂高 (N. I. L.), 穹頂高 (T. L. L.) 及び穹頂高 (T. I. L.) は何れも畿内頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりは大きい。之等の三穹頂高の中、穹頂高 (N. I. L.) が最も高く、穹頂高 (G. I. L.) は之より少しく低く、穹頂高 (G. L. L.) は前二者よりはるかに低い。

(11) 関東頭蓋長幅示数は ♂ 78.15, ♀ 78.40 であつて、男女両性共に短頭に近い中頭を示し、畿内及び中国頭蓋よりも小さいが九州及び北陸頭蓋よりは大きい。尚関東頭蓋を周圀人種と比較するとき北海道アイノよりも大きく、朝鮮人 (小金井) よりも小さい。男女間に確差は認められない。長幅示数の

分類法によりて観察すれば、関東頭蓋は男女両性共に、中頭が最も多く、短頭が之に次ぎ、長頭は短頭よりも少い。即ち関東頭蓋は中国及び畿内頭蓋と同様に Meso-brachykephal に属するものであるが、長頭的要素を相当に持つことによりて後者から区別される。之に対して、北陸及び九州頭蓋は Mesodolichocephal に属する。

(12) 関東頭蓋長高示数 (♂ 76.79, ♀ 75.35) は男女両性共に Hypsikephal に属し、北陸頭蓋よりは大きい、九州、中国及び畿内頭蓋の何れよりも小さい。尚北海道アイノとは大差がないが、朝鮮人(小金井)よりはかなり小さい。男女間に確差は認められない。之を長高示数によりて分類すれば、関東頭蓋は男女両性共に何れも Hypsikephal (♂ 76.1%, ♀ 57.1%) が最も多く、Orthocephal (♂ 22.5%, ♀ 42.9%) が之に次ぎ Chamaecephal は女性になく、男性に1例あるのみである。尚長高示数の分類の関係を他の地方人頭蓋と比較すれば、関東頭蓋は Orthocephal が第1位を示す北陸頭蓋とは大いに異なるが、他の畿内及び中国頭蓋ともかなり相違し、九州頭蓋と近い関係を示している。Martin 表 (S. 796—798) によれば、関東頭蓋は westliche Eskimo (♂+♀ 76.6) と Nordwestgrönländer (♂ 76.9) の間に位し、最大の長高示数を有する部類に属する。

(13) 関東頭蓋幅高示数 (♂ 98.04, ♀ 96.45) は男性では Akrocephal に、女性では Metriokephal に属し、男女両性共に九州及び中国頭蓋よりも小さいが、北陸頭蓋よりは大きく、畿内頭蓋に対しては男女により異つた関係を示している。幅高示数によりて分類すれば、関東頭蓋は男性では Akrocephal が最も多く、Metriokephal 之に次ぎ、女性では Metriokephal が最も多く、Akrocephal 之に次ぎ、Tapeinocephal は両者共に最も少い。尚男女合計に於いては Metriokephal (45.7%) が第1位、Akrocephal (43.5%) が第2位を示している。この関係に於いて関東頭蓋は Akrocephal が第1位を示す九州、畿内及び中国頭蓋と相違し、Metriokephal が第1位である北陸頭蓋に近い状態を示している。Martin 表 (S. 800—803) に於いては関東頭蓋は世界人種表の高位を占める。

(14) 関東頭蓋の頭蓋長耳プレグマ高示数は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい、何れも大差がない。Martin 表 (S. 798) によれば、関東頭蓋は Telengeten (♂ 65.0) と Tatau (♂

64.0) の間に位し、人種表の中位を占める。この示数によりて分類すれば、♂+♀ Orthocephal (59.1%) が最も多く、Hypsikephal (40.9%) が之に次ぎ、Chamaecephal は存在しない。

(15) 関東頭蓋の頭蓋幅耳プレグマ高示数は北陸頭蓋と大差がなく、男女間の確差も認められない。この示数によりて分類すれば、♂+♀ Metriokran (47.3%) が第1位、Tapeinokran (33.3%) が第2位、Akrokran (19.4%) が最も少い。この成績は北陸頭蓋のそれと殆んど一致する。

(16) 関東頭蓋の穹頂高示数 (G. I. L.) 及び穹頂高示数 (N. I. L.) は何れも男女両性共に畿内頭蓋よりも遙かに小さいが、北陸頭蓋よりは僅かに大きく大差がない。何れも男女間に確差は認められない。穹頂高示数 (G. I. L.) は Martin 表に於いては人種表の高位を占める。

(17) 関東頭蓋の水平周径 (♂ 518.35, ♀ 498.32) は男性では、北陸頭蓋よりも僅かに小さく、畿内頭蓋よりもかなり大きい、女性では他の二者よりも大きく、北陸頭蓋之に次ぎ、畿内頭蓋は最も小さい。九州頭蓋は畿内頭蓋と大差がない。要するに関東頭蓋は北陸頭蓋と共に最も長い水平周径を有するものである。男女間には明らかな確差が認められ、男性が女性よりも著しく大きい。関東頭蓋の水平周径は北海道アイノ (♂ 523.2, ♀ 506.8) と朝鮮人(小金井) (♂ 514.6, ♀ 483.4) の中間に位し、Martin 表 (S. 757) では人種表の中位を占める。

(18) 関東頭蓋の正中矢状弧 (♂ 373.16, ♀ 360.36) は男女両性共に最も大きく、畿内頭蓋之に次ぎ、北陸頭蓋は最も小さいが、関東頭蓋と畿内頭蓋との差は極めて僅かである。男女間には明らかな確差が存在し、男性の方が大きい。正中矢状弧は北海道アイノ (♂ 373.3, ♀ 360.7) と略々一致し、朝鮮人(小金井) (♂ 371.6, ♀ 360.2) のそれより少く大きく、Martin 表 (S. 759) では人種表の中位より少しく上位を占める。

(19) 関東頭蓋の横弧 (♂ 320.70, ♀ 307.50) は男性では畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい、女性では三者の間に殆んど差異が存在しない。性別は明らかであり男性の方が大きい。Martin 表 (S. 760) では人種表の中央より上位を占める。

(20) 関東頭蓋の正中矢状前頭 (F)、頭頂 (P) 及び後頭弧 (O) は他の北陸及び畿内頭蓋との間に大差が認められない。次に之等の三弧につきその最長のものの頻度をみるに、男女合計に於いて P

(45.7%) が第1位, F (40.2%) が第2位, O (10.9%) が第3位であつて, F 及び P (3.3%) は最も少い。更に之等三弧の相互関係を $\ominus + \text{♀}$ に於いてみるに, $F > P$ (48.4%) と $F < P$ (47.3%) の間には大差がなく, $F = P$ (4.3%) は極めて少い。次に前頭及び頭頂弧の後頭弧に対する関係は, $F > O$ (73.9%) 及び $P > O$ (71.7%) が何れも圧倒的に多い。

(21) 正中矢状前頭 (F) 及び頭頂弦 (P) は関東, 北陸及び畿内頭蓋との間に大差がなく, 後頭弦 (O) は関東及び畿内頭蓋は北陸頭蓋よりも大きい。次に之等の三弦につき最長のものの頻度をみるに, P (57.6%) が第1位, F (34.8%) が第2位であるが, O (3.3%) と $F = P$ (3.3%) とは同率であつて第3位を占める。更に之等の三弦の相互関係を $\ominus + \text{♀}$ に於いてみるに, $F < P$ (58.1%) が最も多く, $F > P$ (37.6%) が之に次ぎ, $F = P$ (4.3%) が極めて少い。次に前頭及び頭頂弦の後頭弦に対する関係は $F > O$ (93.5%) 及び $P > O$ (90.2%) が何れも圧倒的に多い。

(22) 関東頭蓋の前頭側面角 (♂ 83.63, ♀ 84.68), 前頭傾斜角 (♂ 60.38, ♀ 60.82) 及びグラベローブレグマ角 (♂ 58.77, ♀ 59.23) は前頭側面角の女性を除いて, 男女両性共に何れも畿内頭蓋よりもかなり小さく, 北陸頭蓋よりも僅かに大きい。従つてこの三つの角に関する限り関東頭蓋は畿内頭蓋よりも北陸頭蓋に近い関係を示している。

(23) 関東頭蓋の横頭蓋穹隆示数 (♂ 39.76, ♀ 38.13) は男性では畿内及び北陸頭蓋よりも大きく, この両者との間に明らかな確差証明され, 女性では畿内頭蓋よりも少しく小さいが, 北陸頭蓋よりは遙かに大きく, 後者との間に確差が認められる。

(24) 横前頭一, 横前頭頭頂一及び横頭頂後頭示数は横前頭頭頂示数の男性の場合を除いて, 北陸頭蓋が第1位, 関東頭蓋之に次ぎ, 畿内頭蓋が最も小さいが, 大差はない。男女間には何れも確差が認められない。

(25) 矢状前頭頭頂一, 矢状前頭後頭一及び矢状頭頂後頭示数は関東, 北陸及び畿内頭蓋との間に大差は認められない。男女間には確差が認められない。

(26) 前頭矢状弧一, 頭頂矢状弧一及び後頭矢状弧示数は関東, 北陸及び畿内頭蓋との間に大差なく, 男女間にも確差は認められない。

(27) 関東頭蓋の水平周高示数は男女両性共に畿内頭蓋よりも小さく, 北陸頭蓋よりも大きく, 後者

との間に確差が認められる。

(28) 関東頭蓋の頭蓋幅両耳幅示数は男女両性共に畿内及び北陸頭蓋の何れよりも大きく, 男性に於いては畿内及び北陸頭蓋との間, 女性に於いては北陸頭蓋との間に, 何れも確差が認められる。大後頭孔示数は三地方人頭蓋の間に殆んど差異が認められない。

(29) 矢状前頭一, 矢状頭頂一及び矢状後頭示数は矢状後頭示数の北陸頭蓋の男性を除いて, 三地方人頭蓋の間に殆んど差異は認められない。男女間の確差も証明されない。

(30) 関東頭蓋の後頭幅高示数は男女両性共に畿内頭蓋より小さく, 北陸頭蓋よりも大きく, 男女間に確差は証明されない。

(31) 関東頭蓋の顔長 (♂ 100.39, ♀ 93.25) は男女両性共に他の畿内及び北陸頭蓋と大差がなく, 男女間には確差が認められる。Martin 表 (S. 894) に於いては Indianer (♂ 100.0) の上位に位する。関東頭蓋の下顔長は男女両性共に関東頭蓋が最も大きく, 畿内頭蓋が最も小さいが, 関東頭蓋と北陸頭蓋との間には大差は認められない。

(32) 関東頭蓋の上顔幅 (♂ 105.58, ♀ 100.04) 及び两眼幅 (♂ 98.63, ♀ 94.91) は何れも畿内及び北陸頭蓋と大差がない。男女間には確差が証明される。

(33) 関東頭蓋の頬骨弓幅 (♂ 136.15, ♀ 125.30) は他の北陸及び畿内頭蓋との間に大差がなく, 男女間には確差が証明される。Martin 表 (S. 895) に於いては Australier (♂ 135.0, ♀ 121.7) と Schweizer (♂ 136.4, ♀ 127.7) の間に位する。関東頭蓋の中顔幅 (♂ 99.07, ♀ 95.00) も北陸及び畿内頭蓋との間に大差がなく, 男女間には確差が認められる。Martin 表 (S. 898) に於いては Gnanchan (♂ 98.6, ♀ 94.2) と Torguten (♂ 99.4, ♀ —) との間に位する。

(34) 関東頭蓋の顔高 (♂ 125.78, ♀ 116.13) は男女両性共に, 畿内及び北陸頭蓋よりも大きい, 女性に於ける畿内頭蓋との差は小さい。又関東頭蓋の上顔高 (♂ 72.48, ♀ 68.72) は畿内頭蓋と一致し, 北陸頭蓋よりも大きく, 後者との間には男性に於いて確差が認められる。又男女間には確差が証明される。顔高及び上顔高は Martin 表 (S. 895) に於いては人種表の上位を占める。

(35) 関東頭蓋の後眼窩間幅 (♂ 24.56, ♀ 23.33) 及び前眼窩間幅 (♂ 19.52, ♀ 18.86) は畿内及び北

陸頭蓋に比較して最も大きく、前眼窩間幅に於いては北陸頭蓋との間に、男女両性に確差が証明される。Martin 表 (S. 967) に於いては後眼窩幅は人種表の上位に位する。

(36) 関東頭蓋の眼窩幅 (mf.-ek.) (♂ r. 42.25, 1. 42.17, ♀ r. 39.96, 1. 39.61) は男女両性共に北陸及び畿内頭蓋よりも小さく、男性に於いては北陸及び畿内頭蓋の何れとも確差を示し、男女間にも確差が証明される。Martin 表 (S. 960) に於いては人種表の中位を占める。

(37) 関東頭蓋の眼窩高 (♂ r. 34.46, 1. 34.49, ♀ r. 34.43, 1. 34.57) は男女両性共に北陸及び畿内頭蓋と差がなく、Martin 表 (S. 959) に於いては人種表の上位を占める。

(38) 関東頭蓋の鼻幅 (♂ 25.86, ♀ 26.00) は男女両性共に畿内頭蓋とは大差がないが、北陸頭蓋よりは大きく、殊に女性に於いては北陸頭蓋との間に確差が証明され前者の方が鼻幅が大きい。Martin 表 (S. 938) に於いては人種表の中位を占める。関東頭蓋の鼻高 (♂ 52.27, ♀ 49.39) は畿内及び北陸頭蓋と大差がなく、男女間には確差が認められる。Martin 表 (S. 937) に於いては人種表の上位を占める。

(39) 関東頭蓋の梨状口高 (♂ 30.59, ♀ 27.26) は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きい、それ等の間に大差はない。鼻骨最小幅及び鼻骨最大幅は関東頭蓋と他地方人頭蓋との間に大差が認められない。

(40) 関東頭蓋の上顎歯槽長 (♂ 53.84, ♀ 50.11) は北陸及び畿内頭蓋の何れよりも小さいが大差はない。男女間に確差が証明される。又その歯槽幅 (♂ 66.20, ♀ 61.06) も他地方人頭蓋との間に大差がないが、男女間に確差が認められる。

(41) 関東頭蓋の口蓋長 (♂ 44.31, ♀ 41.58) は男女両性共に畿内及び北陸頭蓋の何れよりも小さく、男女に於いては畿内頭蓋との間に確差が証明される。又男女間にも同様確差が証明される。その口蓋幅 (♂ 40.46, ♀ 37.79) は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりも大きく、男性では後者との間に確差が証明される。男女間にも同様確差が認められる。即ち男性に関する限り口蓋幅は関東頭蓋と北陸頭蓋との間は明らかなる地方差が存在し、前者の方が大きい。

(42) 関東下顎の関節突起間幅 (♂ 124.37, ♀ 116.39) は畿内及び北陸下顎の何れよりも大きく、

男性では北陸下顎との間及び畿内下顎との間に、夫々有意に近い差異が認められる。男女間にも確差が証明される。Martin 表 (S. 971) に於いては人種表の中央より少しく上位を占める。その筋突起間幅 (♂ 102.00, ♀ 95.30) は畿内及び北陸下顎の何れよりも大きく、男女両性に於いて関東下顎と北陸下顎との間には何れも確差が認められ、明らかなる地方差の存在が証明される。男女間にも確差が認められる。その下顎角幅 (♂ 98.55, ♀ 89.30) は他地方人下顎と比較して大差がなく、男女間には確差が証明される。

(43) 関東下顎の頤高 (♂ 36.67, ♀ 33.42) は北陸下顎の女性を除いて、男女両性共に、畿内及び北陸下顎との間に殆んど差異が認められない。男女間には確差が証明される。その頤幅 (♂ 47.49, ♀ 46.13) は他地方人下顎との間に大差はない。

(44) 関東下顎の下顎枝高 (♂ r. 64.68, 1. 64.53, ♀ r. 58.40, 1. 57.96) は男女両性共に北陸及び畿内下顎の何れよりも大きく、右側では男性に於いて畿内下顎との間、女性に於いて北陸下顎との間、左側に於いては男女両性共に、畿内下顎との間に何れも確差が証明される。要するに関東下顎の下顎枝高は左右両側を通じて、畿内及び北陸下顎と明らかなる地方差を示している。尚男女間には確差が認められる。

(45) 関東下顎の筋突起高 (♂ r. 62.18, 1. 61.78, ♀ r. 55.52, 1. 54.84) は左右両側を通じて、男性では畿内及び北陸下顎よりも小さいが、女性では畿内下顎と大差がなく、北陸下顎より少しく大きい。

(46) 関東下顎の下顎切痕高及び下顎切痕幅は北陸及び畿内下顎との間に大差がない。

(47) 関東下顎の下顎枝幅 (♂ r. 33.26, 1. 33.55, ♀ r. 30.96, 1. 31.09) は男性に於ける北陸下顎を除外して男女両性を通じて他の地方人下顎との間に殆んど差異は認められない。

(48) 関東頭蓋の全側面角 (♂ 82.72, ♀ 83.13) は畿内及び北陸頭蓋と大差がなく。Lüthy の表によれば人種表の略々中央に位する。全側面角により分類すれば、関東頭蓋は北陸及び畿内頭蓋と同様に Mesognath (58.1%) 最も多く、Orthognath (31.1%) 之に次ぎ、Prognath (10.8%) が最も少い。

(49) 関東頭蓋の鼻側面角 (♂ 85.94, ♀ 85.61) は畿内頭蓋よりも小さく、北陸頭蓋よりは大きく、男性に於いては畿内頭蓋との間に明らかなる確差が認められる。Lüthy の表によれば人種表の中央に

位する。之を鼻側面角により分類すれば関東頭蓋は、Orthognath (68.1%) 最も多く、Mesognath (27.7%) が第2位、Prognath (3.2%) は遙かに少く、Hyperorthognath (1.1%) は極めて少い。之に反して畿内頭蓋は Orthognath (84.0%) が圧倒的に多く、Mesognath 及び Hyperorthognath は共に (8.0%) にすぎない。

(50) 関東頭蓋の鼻背側面角(♂ 63.22, ♀ 65.43) は畿内頭蓋とは大差はないが、北陸頭蓋よりは遙かに小さく、男女両性共に北陸頭蓋との間に確差が証明される。Lüthy u. Reicher の表 (Martin S. 920) に於いては人種表の中位を占める。

(51) 関東下顎の下顎枝角(♂ r. 128.99, l. 129.30, ♀ r. 131.00, l. 131.57) は左右両側を通じて男性では北陸下顎よりも少しく大きく、畿内下顎よりも遙かに大きい。又女性では北陸下顎よりも小さく、畿内下顎よりも大きい。尚男性では左右両側ともに関東下顎と北陸下顎との間に明らかな確差が証明され、Martin 表 (S. 984) に於いては人種表の上位を占める。

(52) 関東頭蓋のコルマン顔面示数(♂ 91.66, ♀ 92.07) は男性に於いては畿内及び北陸頭蓋と大差なく、女性では僅かに大きい。関東頭蓋をコルマン顔面示数により分類するとき、Hypereuryprosop (2.0%), Euryprosop (5.9%), Mesoprosop (31.4%), Leptoprosop (31.4%), Hyperleptoprosop (29.4%) であつて、Mesoprosop と Leptoprosop とが同じ % を示している。しかるに北陸頭蓋に於いては Mesoprosop が最も多く Leptoprosop が之に次ぐが、畿内及び中国頭蓋に於いては Leptoprosop が最も多く、Mesoprosop が之に次いでいる。更に九州頭蓋に於いては Mesoprosop 最も多く、Euryprosop が之に次ぎ、その関係は他地方人頭蓋と著しく相違し、むしろ北海道アイノに近似する傾向を示している。

関東頭蓋のウイルヒョウ顔面示数は ♂ 125.50, ♀ 118.83 であつて之を分類すれば、Hyperchamaeprosop 2.0%, Chamaeprosop 27.5%, Orthoprosop 45.1%, Leptoprosop 25.2% である。

(53) 関東頭蓋のコルマン上顔面示数(♂ 53.17, ♀ 54.58) は世界諸人種の中位を示し、男女両性を通じて北陸頭蓋よりも大きい。畿内頭蓋とは大差はない。之をコルマン上顔面示数により分類するとき関東頭蓋は Euryen (9.5%), Mesen (54.1%), Lepten (35.1%), Hyperlepten (1.4%) である。

しかして日本人、北海道アイノ、朝鮮人(小金井)及び支那人(Haberer)を通じて Mesen が過半数以上又は半数に近き最高の % を示すことは共通であるが、北陸日本人及び北海道アイノに於いては Euryen が第2位を示しているに對し、他の関東、畿内、中国及び九州日本人、朝鮮人並びに支那人に於いては Lepten が第2位を占めている。殊に朝鮮人頭蓋に於いては Mesen が大部分を示している。

関東頭蓋のウイルヒョウ上顔面示数(♂ 72.90, ♀ 71.60) は北陸頭蓋よりも大きい。畿内頭蓋とは一致する。関東頭蓋をこの示数により分類すれば Hyperchamaeprosop (6.8%), Chamaeprosop (56.8%), Leptoprosop (36.5%) (第18表) であり、何れの頭蓋も Chamaeprosop が過半数を占めているが、支那人、朝鮮人、九州、中国、畿内、北陸及び関東日本人は何れも Leptoprosop が第2位を示すに對し、北海道アイノのみは Hyperchamaeprosop が第2位を示している。

(54) 関東頭蓋の頬骨前頭示数(♂ 86.00, ♀ 89.50) は畿内頭蓋よりも少しく小さく、男女間に確差が存在し、女性の方が大きい。

関東頭蓋の頬骨下顎示数(♂ 73.06, ♀ 71.36) は男女両性共に畿内頭蓋より小さく、男性では北陸頭蓋よりも大きい。女性ではそれよりも小さい。世界人種中に於いては著しく小さい部類に属する。

(55) 関東頭蓋の上顎歯槽示数(♂ 122.58, ♀ 121.83) は他地方人頭蓋と大差がないが、女性に於ける北陸頭蓋よりは少しく大きい。この示数によりて関東頭蓋を分類するとき Dolichouranisch 5.8%, Mesouranisch 10.1% であるに對し、Brachyuranisch は 84.1% という圧倒的数字を示している。この関係は北陸及び畿内頭蓋に於いては関東頭蓋と同様である。

(56) 関東頭蓋の Spinabasislänge による口蓋示数(♂ 93.62, ♀ 92.09) は畿内頭蓋よりも大きく、北陸頭蓋よりは遙かに大きく、Brachystaphylin に属する人種の中位を占める。この示数によつて関東頭蓋を分類すれば、Leptostaphylin 14.5%, Mesostaphylin 10.1% であるに對し、Brachystaphylin は 75.4% の圧倒的数字を示している。之を他地方人頭蓋に比較するに畿内頭蓋は多少のズレはあるが、関東頭蓋に類似するも、北陸頭蓋は Brachystaphylin が最も多いが過半数には充たず、Mesostaphylin 及び Leptostaphylin も相当の %

を示している。

(57) 関東頭蓋の前眼窩間示数(♂ 19.72, ♀ 20.67)は男女両性共に畿内及び北陸頭蓋よりも大きく、関東頭蓋と畿内頭蓋との間及び関東頭蓋と北陸頭蓋との間には何れも明らかなる確差が証明される。この関東頭蓋と他地方人頭蓋との間に明らかな地方差が証明されることは注目すべき所見である。尚関東頭蓋は人種表の中位を占める。

(58) 関東頭蓋の眼窩示数(♂ r. 81.68, l. 82.00, ♀ r. 86.41, l. 86.93)は北陸及び畿内頭蓋よりもかなり大きく、その関係は女性の右側に於いて特に著明であり、関東頭蓋と北陸頭蓋との間及び、関東頭蓋と畿内頭蓋との間には何れも確差が証明される。この所見は女性の右側に於いて明らかな地方差が存在することを示している。眼窩を眼窩示数によりて分類すれば、関東頭蓋は Chamaekonch 6.9%, Hypsikonch 36.7%, であるのに対し Mesokonch は過半数の 56.4% を示している。之を他地方人頭蓋と比較するに九州及び北陸頭蓋は関東頭蓋と同様に Mesokonch を中心にしてより多く Hypsikonch の方に傾いているが、之に反して、畿内頭蓋は Mesokonch を中心としてより多く Chamaekonch の方に傾いていることは注目すべき所見であろう。

(59) 関東頭蓋の鼻示数(♂ 49.80, ♀ 53.02)は男性に於いては他地方人頭蓋と大差がないが女性に於いては北陸及び畿内頭蓋の何れよりも大きい。即ち関東地方の女性は畿内及び北陸地方の女性に比較して、比較的広い鼻を有するものと思われる。この鼻示数によりて分類すれば関東頭蓋は Leptorrhin (20.2%), Masorrhin (35.1%), Chamaerrhin (38.3%), Hyperchamaerrhin (6.4%) であつて、Mesorrhin 及び Chamarrhin が 30% 台を示している。之を他地方人頭蓋と比較するに、畿内頭蓋はその関係が関東頭蓋に類似するが、北陸頭蓋は Leptorrhin, Mesorrhin 及び Chamaerrhin の三者が何れも同率に近い 30% 台を示している。

(60) 関東頭蓋の下顎幅示数(♂ 79.25, ♀ 77.06)は何れも畿内及び北陸頭蓋のそれよりも小さく、男性に於いては、関東下顎と北陸下顎との間、関東下顎と畿内下顎との間には何れも確差が証明されるが、この成績は研究者による計測点の相違を考慮に入れて判断する必要がある。

関東頭蓋の下顎枝示数(♂ r. 50.90, l. 52.01, ♀ r. 53.41, l. 53.93)は何れも北陸及び畿内頭蓋のそれよりも小さく、男性に於いて左右を通じて関東下

顎と畿内下顎との間並びに関東下顎と北陸下顎との間に何れも確差が証明されるが、その信頼性は研究者による計測点の相違を考慮して判断する必要がある。

(61) 関東頭蓋の顎示数(♂ 97.30, ♀ 96.89)は男女両性共に北陸頭蓋よりも小さく、殊に女性に於いてそれが著しい。関東頭蓋を顎示数によつて分類すれば Orthognath 57.1% で最も多く、Mesognath 36.4%, Prognath 6.5% である。しかるに北陸頭蓋に於いては Mesognath が最も多く、Orthognath が之に次ぎ、その関係は関東頭蓋とかなり相違する。

第5章 結 論

著者は千葉大学医学部解剖学教室所蔵の頭蓋の中から関東地方出生の男性頭蓋 76 個、女性頭蓋 23 個を厳選し主として R. Martin の方法により脳頭蓋及び顔面頭蓋の計測次の様な成績を得た。

I 関東日本人頭蓋の計測的特長

(1) 頭蓋容積は、男女両性共に Aristenkephal に属する。頭蓋最大長は日本人に於いては長い部類に、又頭蓋最大幅は大きい部類に属する。その他の長径は短く、幅径は大きい。頭蓋高径は一般に高い。

頭蓋長幅示数は男女両性共に Mesokephal に、頭蓋長高示数は男女両性共に Hypsikephal に、又頭蓋幅高示数は男性では Akrokephal に女性では Metriokephal に属する。頭蓋長耳プレグマ高示数は男女両性共に Hypsikephal に頭蓋幅耳プレグマ高示数は男女両性共に Metriokrau に属する。

水平周径は日本人中長い部類に属する。

正中矢状弧、横弧、三弧及び三弦は他地方人と大差なく、三弧の比較に於いては頭頂弧が最長のものが最も多く、三弦の比較に於いては頭頂弦が最長のものが最も多い。

前頭側面角等からみて、前頭骨の膨隆は稍々弱い。

横頭蓋穹隆示数は一般に他地方人よりも大きく、頭蓋幅両耳幅示数は男女両性共に大きい。矢状前頭頂、矢状頭頂及び矢状後頭示数は他地方人と大差はない。

(2) 顔面の長径及び幅径は他地方人と大差なく、高径は僅かに大きい。全側面角は男女両性共に、Mesognath に、鼻側面角は Orthognath に属する。

コルマン顔面示数は男女両性共に *Leptoprosop* に、ウイルヒョウ顔面示数は男性では *Ortoprosop* に、女性では *Chamaeprosop* に属し、コルマン上顔面示数は男女両性共に *Mesen* に、ウイルヒョウ上顔面示数は男女両性共に *Chamaeprosop* に属する。

(3) 眼窩入口は狭く、之に反して眼窩間部は広い。眼窩高は他地方人と大差がない。

前眼窩間示数は他地方人に比較して大きい。眼窩示数は左右を通じて、男性は *Mesokonch* に、女性には *Hypsikonch* に属する。

(4) 鼻部は他地方人と大差がない。上顎歯槽及び口蓋はやゝ広い。

上顎歯槽示数は男女両性共に *Brachyuranisch* に、口蓋示数は男女両性共に *Brachystaphylin* に属する。鼻示数は男性では *Mesorrhin* に、女性では *Chamaerrhin* に属する。

(5) 下顎骨の幅径は稍々広く、下顎枝の高径は大きく、幅径は他地方人と大差がない。下顎枝角は大きい。

顎示数は男女両性共に *Orthosnath* に属する。

II 性 別

(1) 脳頭蓋に於いては、計測絶対値は角度計測を除外して、全部の項目に亘り男性が女性よりも大きく、多くの項目に於いて明らかなる確差が証明される。即ち大後頭孔長、大後頭孔幅、穹頂高 (N. I. L.) 穹頂高、(G. L. L.) 頭頂弧、後頭弧、頭頂弦及び後頭弦を除く他のすべての項目に於いては確差が存在する。その中、容積、頭蓋最大長、グラベローイニオン長、ナジオン—イニオン長、グラベローラムダ長、基部底長、基底長、両耳幅、最大後頭幅、バジオンブレグマ高、直高、耳ブレグマ高、直耳高、水平周径は特にその差が著しい。角度計測値は前頭側面角、前頭傾斜角、グラベローブレグマ高、ラムダーイニオン角のすべてに於いて、女性の方が男性よりも少しく大きく、確差は証明されない。従つて女性の前頭骨の方が傾斜が少しく急で、且つ膨隆している。

示数値についてはその絶対値が女性の方が大であるものが多いが、男女間に明らかなる確差が証明されるものは横頭蓋穹隆示数及び頭蓋幅両耳幅示数の二つのみであつて、何れも男性の方が大きい。

(2) 顔面頭蓋に於いては、計測絶対値は角度計測を除外して、一般に男性は女性よりも大きい。その中顔長、上顔幅、両眼幅、頬骨弓幅、中顔幅、上

顔高、上顎歯槽幅、上顎歯槽長、口蓋長、口蓋幅の各項目に於いては何れも明らかなる確差が証明される。

眼窩部に於いては眼窩高の左側のみが女性の方が大きく、他は何れも男性の方が大きい。特に眼窩幅に於いては確差が証明される。

鼻部に於いては鼻幅、鼻骨最小幅及び最大幅は女性の方が大きい、鼻高及び梨状口高は何れも男性の方が大きく、確差が証明される。

下顎骨の計測値は何れも男性の方が大きく、その中、下顎関節突起間幅、筋突起間幅、頤高、下顎枝、筋突起高、切痕幅 (左側) の各項目は何れも明らかなる確差を示している。角度の計測値に於いては鼻側面角のみが男性の方が大きく、全側面角、鼻背側面角及び下顎枝角は何れも女性の方が大きい。すべてを通じ確差は認められない。

示数値に於いてはその絶対値が女性の方が大であるものが多いが、男女間に明らかなる確差が証明されるものは、頬骨前頭示数及び眼窩示数の二つであつて何れも女性の方が大きい。

III 周囲人種及び他地方人との比較

(1) 計測絶対値 (角度計測を含む) 及び示数値による他地方日本人との比較。

関東頭蓋と他地方人頭蓋即ち北陸及び畿内頭蓋の全項目についての計測絶対値及び示数値の確差計算の結果、関東頭蓋は北陸頭蓋と多くの項目に亘つて明らかなる地方差を示す外、畿内頭蓋とも相当数の項目に亘り、同様明らかなる地方差を有することが認められる。即ち関東頭蓋と北陸頭蓋との間には 26 項目について確差が認められその中男性に於いて確差のあるもの 20 項目、女性に於いて確差のあるもの 15 項目、男女共に確差のあるもの 10 項目である。しかるに関東頭蓋と畿内頭蓋との間には 20 項目に亘りて確差が認められ、その中男性に於いて確差のあるもの 18 項目、女性に於いて確差のあるもの 9 項目、男女共に確差のあるもの 7 項目である。以上の結果からして関東頭蓋は北陸頭蓋との間にかんがひるに或る項目群は北陸頭蓋とのみ確差を示し、又或る項目群は畿内頭蓋とのみ確差を示しているが、少数の項目群に於いては畿内及び北陸頭蓋の何れとも確差を示している。その中北陸頭蓋とのみ確差を示しているものにグラベローイニオン長、両耳幅、乳様突起間幅、バジオン—ブレグマ高、直高、

耳ブレグマ高, 頭蓋長高示数, 水平周高示数, 上顔高, 前眼窩間幅, 鼻幅, 口蓋幅, 筋突起間幅, 鼻背側面角, 口蓋示数等であり, 畿内頭蓋とのみ確差を示すものに, 穹頂高示数 (G. I. L. 及び N. I. L.) 前頭傾斜角, グラベローブレグマ角, ラムダーイニオン角, 口蓋長, 鼻側面角, 下顎枝角であり。又畿内及び北陸頭蓋の両者と確差を示すものは, 横頭蓋穹隆示数, 頭蓋幅, 両耳幅示数, 眼窩幅, 下顎枝高, 前頭窠間示数, 眼窩示数, 下顎幅示数, 下顎枝示数等である。

(2) 頭蓋示数の分類による周囲人種及び他地方日本人との比較

頭蓋長幅, 長高, 及び幅高の各示数及び顔面及び上顔面の各示数による分類に従つて, 関東日本人を他地方日本人及び朝鮮人, 支那人, 北海道アイノ等の周囲人種と比較すれば次の通りである。

頭蓋長幅示数に於いては, 北海道アイノは *Mesodolichocephal* に, 朝鮮人及び支那人は *Mesobrachycephal* に属するが, 各地方人の中, 北陸及び九州日本人は *Mesodolichocephal* に, 関東, 畿内及び中国日本人は *Mesobrachycephal* に属する。従つて関東日本人は北陸及び九州日本人とは明らかに区別されるが, 畿内及び中国日本人とも同じ *Mesobrachycephal* ではあるが, その長頭的要素の多いことによつて区別される。

頭蓋長高示数に於いては *Orthocephal* が最も多いのは北陸日本人のみで関東日本人を含む他の日本人及び周囲人種はすべて *Hypsikephal* が最も多い。しかして同じ *Hypsikephal* の中でも関東日本人は朝鮮人, 中国及び畿内日本人とはかなり相違し, 九州日本人, 北海道アイノ及び支那人と近似の数値を示している。要するに関東日本人は以上の意味に於いて北陸日本人とも又畿内日本人とも区別される。

頭蓋幅高示数に於いては関東及び北陸日本人のみが *Metriocephal* が最も多いのに対し, 他の畿内, 中国及び九州日本人並びに周囲人種はすべて *Akrocephal* が第1位を示している。従つてこの点に関し, 畿内, 中国, 及び九州日本人とは明らかに区別されるが, 一方北陸日本人とは類似するも, 第3位の *Tapeinocephal* が少いことによつて之から区別される。

コルマン顔面示数に於いては, 北海道アイノは *Euryprosop* 及び *Mesoprosop* が何れも第1位であり, 支那人に於いては *Leptoprosop* 第1位,

Hyperleptoprosop 第2位であり, 両者は反対の傾向を示している。しかるに関東日本人は *Mesoprosop*, *Leptoprosop* 何れも同率にして第1位を示し, *Hyperleptoprosop* が第2位を示し, その関係は多少のズレはあるが北陸日本人に類似する。しかるに畿内及び中国日本人は之と異り *Leptoprosop* が第1位, *Mesoprosop* が第2位を示すのに対し, 九州日本人は之と反対に *Mesoprosop* 第1位, *Leptoprosop* 第2位を示している。要するに関東日本人は北陸日本とのみ類似の傾向を示し, 他の畿内, 中国及び九州日本人とは勿論周囲人種とも相違している。

コルマン上顔面示数に於いては, 何れも *Mesen* が第1位を示しているが, *Euryen* が第2位を示すのは北陸日本人及び北海道アイノのみであつて, 他はすべて *Lepten* が第2位を示している。後者の中で数値的に類似の傾向を示すのは, 関東及び畿内日本人並びに支那人である。要するにこの示数の分類に於いて, 関東日本人は北陸日本人とは区別されるが, 畿内日本人とは区別されない。

稿を終るに臨み終始御懇篤なる御指導と御校閲の労を賜りたる恩師小池教授に対し謹しみて満腔の謝意を表する。

主要文献

- (1) 足立文太郎: 硬口蓋の脈管溝に就ての略報, 東医学会誌, 8, 1894. 9, 1895.
- (2) 足立文太郎: 本邦中国頭蓋 (岡山頭蓋), 東人類会誌, 162, 1899.
- (3) 足立文太郎: 日本人体質の研究, 1928.
- (4) Haberer K. A.: Schädel und Skeletteile aus peking 1, Jena. 1902
- (5) 長谷部言人: 日本人頭蓋の地方的差異, 人類誌, 32, 10, 1917.
- (6) 長谷部言人: 日本人頭蓋縫合調査 (其の1), 癒着の順序並びに時期, 京都医学会誌, 5, 2, 1908.
- (7) 原 正: 犯罪頭骨に就て, 研瑤会誌, 149, 151, 1920. 152, 153, 1921.
- (8) 本田盛正: 北陸頭蓋の形状; 金沢医大解剖学教室業績集; 第7冊, 1932.
- (9) 今村 豊, 島 五郎: 東部アジア諸種族の相互関係, 人類誌, 50, 3, 1935.
- (10) Koganei Y.: Über vier Koreaner-Schädel Mitt. med. Fak. Univ. Tokyo Bd. 1

- (11) **Koganei, Y.:** Beiträge zur physischen Anthropologie der Aino I. Untersuchungen am Skelet. Mitt. med Fak. Univ. Tokyo **2**, 1893
- (12) **Koganei, Y.:** Über Schädel und Skellette der Koreaner, Zschr. Enth. Bd. 38. 1906.
- (13) **Martin, R.:** Lehrbuch der Anthropologie, **2**, Auf. 1928.
- (14) **宮本博人:** 現代日本人骨の人類学的研究, (第一部, 頭蓋骨の研究), 人類誌, **39**, 10, 11, 12, 1924.
- (15) **森田 茂:** 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究, 慈恵会医科大学解剖学教室業績集, 第3輯, 1950.
- (16) **中野鑄太郎:** 日本人頭蓋計測, 十全会誌, **18**, 3, 4, 9, 1913.
- (17) **二井一馬:** 日本人鼻の研究補遺, 十全会誌, **35**, 1, 2, 4, 7, 10, 1930.
- (18) **Ono, R.:** Untersuchungen über die Orbita von Japanern Japanese Janal of Med. Sciences **1**. Anatomie **1**, 4,
- (19) **大槻嘉男:** 北陸日本人頭蓋骨の人類学的研究, 十全会誌, **35**, 1, 3, 4, 9, 10, 12, 1930. **36**, 1, 1931.
- (20) **大槻嘉男:** 北陸日本人頭蓋骨の人類学的研究, 金沢医大解剖学教室業績集, 第2冊, 1931, 13, 14, 1933.
- (21) **Satake, S.:** Untersuchungen über die Orbita 2te Mitteilung Beiträge zua Untersuchung über die Orbita der Japaner Mitt. der med. Akademie zu Keijo, **10**, 1, 1927.
- (22) **鈴木文太郎:** 人類, 1912.
- (23) **島 五郎:** 撫順郊外にて得たる支那人頭蓋骨の人類学的研究, 人類誌 **48**, 8, 1933.
- (24) **島 五郎:** 現代朝鮮人体質人類学補遺, 頭蓋骨の部, 人類誌, **49**, 7, 1934.
- (25) **Ueda, T.:** Psysische-anthropologische Untersuchungen über den Schädel der ostasiatischen Völker 1. Mitteilung The Keijo Journal of Med., **2**, 1, 1931.
- (26) **横尾安夫:** Dajak 骨格の人類学的研究, 人類誌, **46**, 10, 1931.
- (27) **横尾安夫:** 人類学先史学講座, **5**, 1938.